



特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

第11回 通常総会議案書

開催日時：2014年6月7日（土）13:00～15:00

開催場所：東京オペラシティ 第1会議室

（東京都新宿区西新宿3丁目20-2 東京オペラシティビル7階）

開 会

定数確認

代表挨拶

議長選任

議事録署名人選任

議 案

<決議事項>

第1号議案 2013年度事業報告および決算報告

第2号議案 理事・監事の改選

<報告事項>

第3号議案 地域運営委員の選任

第4号議案 2014年度事業計画および予算

議長解任

閉 会

事業ならびに決算報告は、各担当理事からの報告を取りまとめた資料1「2013年度事業報告」と事務局が取りまとめた資料2「2013年度決算報告」をご参照ください。

■2013年度 事業報告

資料1

【2013年度事業のまとめ】

2013年度は、大きな出来事が三つありました。

○一つめは、任期途中での代表交代と、その(前)代表の逝去。永年にわたり代表として子どものあそび場づくり活動を牽引された大村虔一さんを失ったことは痛感の極みではありますが、協会のミッション「遊びあふれる まちへ！～地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会の実現」に向けては、まだまだ一層の推進が必要であることを認識し、協会会員とともに着実に活動を行っていきたくと改めて考えております。

○二つめは、3年ごとに開催している「冒険遊び場づくり全国研究集会(第6回)」を福岡県にて開催したこと。「『遊ぶ』を社会で支える」をテーマに、全国から220名の参加があり、明日からの現場に活かせる実践的な技術や知恵について、参加者が互いに双方向のやり取りをし、持ち寄りあって協働するというプロセスを大切にできたと考えております。

○そして三つめは、復興支援活動の取り組みです。2011年に発生した大震災・大津波と原発事故からの復興は未だ道半ばであり、子どもを取り巻く環境、とくに外遊びの環境がまだまだ回復していないこの状況において、協会がアピールしてきた「子どもにとって『遊ぶ』は生きることそのものであり、その大切さを伝え広め、遊びに関わる大人や、遊びの大切さを理解する大人を増やしていく」ことが、被災地において今こそ切実に求められています。

復興支援活動においては、日本ユニセフ協会からは遊びの出前車両「プレーカー」の運用を委託事業として全面的に支援いただくこととなり、また、復興庁の復興を加速するための「『新しい東北』先導モデル事業」の事業募集には、協会のミッションをベースに、協会の有するノウハウを組み合わせ、「住民・行政のパートナーシップで育てる冒険遊び場モデル事業」として応募し採択され、年度末ギリギリまでを要しましたが、受託した事業を一通り終えることができました。なお、事業を通じた知見や経験を元に2014年度の継続事業募集に応募し採択を得ているところであり、日本ユニセフ協会からの受託事業と合わせて、さらにしっかりと組立てを行い着実に進めていきたいと考えております。

管理部門についても報告します。

○2013年度当初は、代表：大村虔一、副代表：梶木典子、関戸まゆみ、三浦幸雄、事務局員：関内桃子、小島裕子の2名の体制で活動を開始(会計業務の一部を会計事務所に委託)。前年に引き続き、毎月定例の事務局会議を副代表(一部スカイプ参加)と事務局員で行い、管理諸事項を事務局裁量で進めた。

○昨年6月下旬に臨時理事会を開き、大村虔一代表の健康上の理由での辞任を受け、名誉代表：大村虔一、代表：関戸まゆみ、副代表：梶木典子、佐々木健二、三浦幸雄を選任し、9月から新体制にて活動を継続することを決定。

○10月に復興庁の「新しい東北」モデル事業に応募した提案が採択され、事業を実施するにあたり事務局体制の強化が必要と判断、会員参画のN遊S編集委員であった林直樹を東北復興支援事業統括兼、協会事務局長として11月から配置した。協会事務局(東京)は、この4月から関内桃子が産休・育休(一年間)に入り、代わりに糸賀未己子が担当、5月から岩下礼子も会計担当として加わり、林事務局長以下3人の事務局員が管理業務を担っている。

○なお、日本ユニセフ協会からの支援拡大も決定し、東北での実働体制を整える必要から、本年1月に仙台市太白区に東北オフィスを開設し、東北オフィス担当事務職員を1名、あそびっカー担当を1名新規採用した。東北事務局の組織体制は、復興事業統括：林直樹、業務本部長：須永力、プレーカー担当：廣川和紀、事務/広報担当：安達日向子。なお、この東北事務局の人件費等および協会事務局(東京)の関連する業務の事務局人件費は、復興支援事業(二件)の受託費に含まれている。

以下、2013年度に行った事業について、各事業ごとに報告を行います。

タイトル：インタビューでつなぐ被災地域の遊び場づくりの記録ー子どもが思い切り遊ぶ笑顔を広げたい！ー1995. 1. 17～2011. 3. 11～2014. 3. 31（発行：西公園プレーパークの会、監修：NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会）

概要：全体として「遊びを通じた子どもの心のケア」活動が1995年の阪神淡路大震災において行われていたことをはじめに紹介し、東日本大震災における活動への継続性を理解できる構成とした。本編の「東日本大震災における被災地域の遊び場づくりインタビュー」には、19のインタビューをとりまとめ、震災後の被災地で再開した遊び場、新たにはじめられた遊び場づくりの声とともに、気仙沼あそびーばー設置に協力頂いたシャンティ国際ボランティア会（SVA）や、子ども環境学会、日本ユニセフ協会、復興庁の声を掲載した。資料編では、阪神淡路大震災における被災地域の遊び場づくりの記録資料、及び東日本大震災における被災地域の遊び場づくり活動記録（協会事業の方針・計画・広報の記録、気仙沼あそびーばー・プレーカー・西公園プレーパーク他の記録）を掲載した。

編集体制：佐々木健二・齋藤啓子・関戸まゆみ・武澤麻紀・鶴岡彩

編集会議：8月11日（仙台）、8月20日（新宿）、2月2日（仙台）

取材期間：2013年8月～2014年3月

02 一斉開催（第4回冒険遊び場全国一斉開催）

■実施体制

●事業02：冒険遊び場全国一斉開催の実施

担当：関戸博樹

■事業目的

「遊び」や「地域」との関わりの深い「冒険遊び場づくり」の実践は、近年の様々な社会問題や震災復興においても一つの社会的なメッセージとして注目されている。4年目となる「冒険遊び場一斉開催の日」を通じて社会に対して冒険遊び場の存在や子どもの遊びの価値について啓発活動に取り組む。

■活動概要と成果

・2013年11月16日（土）～24日（日）にテーマ「食べる！寝る！遊ぶ！！」として開催。参加団体数は過去最多の157団体（+賛同38）だったが、取り上げられた主なメディアは少なく、以下の通り。

・11/20 富士ニュース 「生きる力育む 冒険遊び場たごっこパーク」

・11/23 NHKラジオ第1放送「土曜あさいちばん」内の『サタデーピックス』 協会代表の関戸まゆみが出演（事務局で事前収録）。

参加団体の募集にwebによる申込みフォームを作ったことは、表明しやすく好評であった。また、初の企業（ビクトリノックス・ジャパン株式会社）との協賛が実現した。ポスター用の写真提供団体への入賞特典なども今後の関心につながる展開が得られた。次年度は写真展なども展開したい。

2010年の初開催以来となる省庁への後援名義申請を行ったが、震災後申請の継続を中断していたため手続きに時間がかかり、文部科学省からのみ後援名義使用の許可が出た。第5回の際には年度の初めには名義申請を行い、複数の省庁から名義使用許可をもらうことを目指す。

キャンペーン期間前の事前告知を行うことができた。①10月1日 とうきょうプレイデー：渋谷駅前でのPR活動（3時間で約300枚のチラシ配布）②10月12日、13日 モンベル・フレンドフェア：幕張メッセでPR活動（2日間で4,485名の来場者）

「このキャンペーンが道内の団体をつなげて社会にアピールするきっかけになっている」と北海道の活動者の声や、他の活動者より類似の声が集まっている一方で、日々の自団体の活動の維持以外には力が割けずに負担になっている、もしくは活用しきれない団体の声も多かった。

取り上げられたメディアの数にも表れているが、第5回に向けた課題として「キャンペーンの話題性づくり」があげられている。埼玉県庁の記者クラブの方や厚生労働省の担当者からも指摘を受けた。現在、「開催期間中に全国数カ所で街頭キャンペーンを行う」「ポスター部隊を募り、例えば全国各地の主要駅や山手線全駅などにポスターを貼り出す」「各鉄道会社の沿線にある遊び場でスタンプラリーを行い、協賛企業からの景品がもらえるようにする」などの案が出ている。

2月に参加賛同団体へのアンケートを行ったが、次年度は開催終了後にすぐにアンケートをとりたい。

03 全国集会（第6回冒険遊び場づくり全国研究集会）

■実施体制：

●事業03：第6回冒険遊び場づくり全国研究集会の開催

担当：古賀久貴・菅博嗣・野下健

■事業目的

子どもが野外で遊び、地域でのびのびと育つことを大切に思う人が集い、語り合い、さらに冒険遊び場づくりを普及・啓発していく気運を高めることを目的とする。

■活動概要と成果

事業03-1

開催地・福岡のPLAY FUKUOKAとの連携により実施体制を組織した。初めて九州で行われる全国研究集会であったが、220名の参加者を得て開催することができた。「『遊ぶ』を社会で支える」をテーマに掲げ、基調プログラム『遊ぶ（冒険遊び場づくり）』で目指すもののほか、16の分科会・モーニングプログラムを実施した。全体会は福岡の若手を中心にオープンスペーステクノロジー※という新たな方法で行われた。集会を通じて、「遊ぶ」から社会や大人のあり方を見つめ直す熱い議論がなされた。報告書はインターネット上に公開する予定である。

本集会は、今後の全国研究集会のモデルとすべく、関東の協会と開催地域との連携を図った。インターネット会議を度々行い、計画・準備を進めた。講師等の選任においては、開催地を中心にこれまで以上に幅広い人材に活躍してもらえた。実務作業の把握など事業統括や役割分担に課題が残された。

※オープンスペーステクノロジー（ワールドカフェコミュニティジャパン ウェブサイトより）

OST（オープンスペース・テクノロジー）はある重要な組織的テーマについて、関係者が一同に集まり参加者自ら解決したいと望む課題や議論したい話題を提案し、自主的にスケジュールと話し合いの参加形態を決め進めていく方法です。参加者の当事者意識が最大限発揮されることで、深い議論と、具体的な行動プラン、ビジョン、チーム形成などが短時間で到達できることに最大の特徴があります。

04 対話交流（地域運営委員参画によるネットワークづくり）

■実施体制：

●事業04：事業地域運営委員による企画や小集まりへの補助

担当：野下健

■事業目的

全国の地域運営委員が中心となり、各々の地域において活動団体および活動者相互のネットワークづくりを進める。さらに、それらが活発になるように、地域運営委員を含めた全国の交流の場をつくる。これらの交流活動を通じて冒険遊び場づくりに関わる情報やノウハウ等の交換および人的交流により冒険遊び場づくり活動を促進する。

■活動概要と成果

担当理事による地域運営委員へのサポートができなかった為、地域での活動は各地域運営委員の自主性に任せ、ネットワークの促進はできなかった状況であった。

予算の使い方、立案企画事業については、メール上での意見交換の結果1人当たり上限1万円の活動費として暫定的に進める事になったものの、特定の地域を除いて活用されていない。

Skype小集まりは5月、6月に実施したが、なかなか参加人数が増えなかった事、新たな企画が立てられなかったことなどで、その後開催できていない。

しくみを活発な動きにつなげるために、サポート方法や担当も検討していきたい。

【伝える・示す事業】

05 社会への問題提起（政策提言・遊育プログラム・資格認定検討）

■実施体制：

- 事業 05-1：政策提言 担当：佐々木健二・三浦幸雄
- 事業 05-2：プレーリーダーの専門研修「遊育プログラム」の再開実施 担当：関戸まゆみ・天野秀昭
- 事業 05-3：プレーリーダーの専門能力の評価手法開発と資格認定の検討
担当：三浦幸雄・関戸まゆみ・天野秀昭・嶋村仁志

■事業目的

子どもの育ち・子育てにおいて「外遊び」が必要不可欠であること、及び子どもの遊びに関わるプレーリーダーの専門性の高さ和社会的地位向上の必要性を社会に提起する。

■活動概要と成果

●事業 05-1

子ども・子育て支援法に基づき平成 25 年 4 月以降に設置された国及び地方自治体の「子ども・子育て会議」の動向及び平成 25 年 8 月に 10 年間の期限延長が閣議決定された次世代育成対策推進法の動向を注視しつつ、子どもの外遊び活動が子どもの育ちに不可欠であり、市民による遊びづくり活動が親の子育ての支援につながることをアピールする新たな政策提言書を作成・発行する機会を伺ってきた。具体的には次期政策提言書の骨子案は作成済であるが、「にっぽん子育て応援団」が主催する「わがまちの子ども・子育て会議 ML」に参加している中で、子どもの遊びに関わる政策提言書発行は次年度以降とすることが適当と判断した。

●事業 05-2：事業 01-4（復興庁事業）の中で「遊育プログラム 2013」を実施した。

●事業 05-3：事業 01-4（復興庁事業）の中で「冒険遊び場プレイワーカー資格認定制度研究会」を実施した。

06 実施支援（行政協働・講師派遣・各種発行物）

■実施体制

- 事業 06-1：行政との協働事業の実践 [東京都港区、東京都狛江市（以上継続）]
担当：嶋村仁志・菅博嗣・関戸まゆみ・三浦幸雄
- 事業 06-2：講師やプレーリーダー派遣依頼への対応 担当：菅博嗣
- 事業 06-3：マンガパンフレットの発行と活用 担当：関戸まゆみ
- 事業 06-4：ノウハウブックレットの編纂 担当：嶋村仁志

■事業目的

子どもがのびのびと思い切り遊ぶことの出来る機会の大切さを伝え、行政の施策として位置づけていくことを支援する

■活動概要と成果

●事業 06-1

港区では、冒険遊び場づくり体験の実現のためのプレーリーダーの派遣、住民運営を目指した住民組織の立ち上げの支援、そして年度途中から懸案となった指定管理者との連携の検討に取り組んだ。当初の年度計画である平成 25・26 年度での住民組織の立ち上げは、づくり体験の実施、地域こぞって子育て懇談会への参加、そして行政を交えた協議の支援を重ねる中で実現しつつある。

狛江市は、平成 25 年度の狛江市と「狛江に遊び場をつくる会」との市民提案型協働事業によるプレーリーダー派遣委託事業は終了し、5 日連続×2 週間、3 日連続×4 週間などの試験開催を経て、遊び場を

常設することの意義を確認した。

平成 27 年度に常設の冒険遊び場開催の設置が決定した。10 月には、行政の設置準備委員会（委員長：嶋村・副委員長：狛江に遊び場をつくる会・岡本）が始まり、4 月に市長への中間答申を行った。

●事業 06-2

本年度は、2012 と 2013 年度の講師派遣実績記録のデータ化を行った。

今後は、このデータを使って①派遣に応じる分野、②派遣に応じる人材、そして③派遣実施のシステムといった観点から協会が取り組む講師派遣の可能性と課題を整理して、講師派遣による協会ミッションの展開戦略と会員が講師として参加しやすい仕組みを見出していきたい。

●事業 06-3

漫画家井上きみどり氏作画による冒険遊び場づくりを説明する 16 頁の小冊子を、2012 年度末に港区が発行（編集協力：日本冒険遊び場づくり協会）した。それを全国向けに改訂し、日本冒険遊び場づくり協会が発行。裏表紙には各団体の連絡先を記載できるようにした。定価 300 円（会員価格 100 円）6 月に初版 2000 部を印刷。各団体がまとめて買い入れ活用するなど好評で、12 月に 1000 部増刷して販売継続中である。冒険遊び場づくりに理解を得るための基本が盛り込まれ、わかりやすく読みやすいツールとして今後も長く利用したい。なお、仙台の西公園プレーパークの会が作成した 1 メートル四方ほどの大型布絵本も、各地のイベント会場で活躍した。販売総数約 2500 部（2014 年 3 月末実績）

●事業 06-4

2013 年度は、第 1 号「冒険遊び場づくりブックレット技術編 01『危険管理の初歩』」を発行し、第 1 刷を完売し、増刷した。各地での危険管理講座のための資料などとして利用されている。また、第 2 号に向けた企画を検討している。

【協会の基盤整備】

07 会報発行（会員参画による N 遊 S 発行）

■実施体制

●事業 07：会員参画、編集による機関紙「N 遊 S」の発行 担当：齋藤啓子・関戸まゆみ

■事業目的

「遊びあふれるまちへ」を掲げる日本冒険遊び場づくり協会の機関紙「N 遊 S」を発行する。

■活動概要と成果

N 遊 S55 号（7 月 1 日）発行：特集「第 6 回全国研究集会」、N 遊 S56 号（10 月 1 日）発行：特集「行ってきました！全国研究集会」、N 遊 S57 号（12 月 19 日）発行：特集「冒険遊び場全国一斉開催特集、北から南まで！あそびば珍六景」、N 遊 S58 号（3 月 27 日）発行：特集「ありがとう、度一さん」の編集会議、取材、原稿作成、版下作成、印刷、発行、発送を行った。

55 号：開催地福岡のプレイヤー座談会を企画し、全国研究集会への関心を高めた。

56 号：参加したプレーリーダーが全国研究集会を取材し、新たな視点で紹介した。

57 号：全国一斉開催地を積極的に取材し、冒険遊び場の多様なありかたを発信した。東北短信で福島の子どもを応援する取り組みを紹介した。

57・58 号：連載「こちらプレーリーダー研究所」で、全国集会での流れを受けてプレーリーダー（ワーカー）の役割について再考する座談会を企画した。

58 号：1 月に逝去された名誉代表大村度一氏への追悼のことばを集めた。冒険遊び場プレイヤー資格認定制度研究会第 1 回研究会の様子を伝えた。

新編集委員の加入により、取材、編集、デザインレイアウトなどの仕事の分担が図れた。会報の在庫活用案を募集して実施した。HP へのアーカイブ掲載などについては、今後も継続して検討する。IPA 日本支部（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）の協力により、IPA 日本支部会員にも会報の発送を継続している。

08 調査研究

■実施体制

●事業 08-1：全国冒険遊び場実態調査

担当：梶木典子

■事業目的

冒険遊び場づくり活動全国実態調査（全国自治体対象・活動団体対象の2種）を実施し、冒険遊び場づくり活動の現状とその推移を把握する。

■活動概要と成果

【第6回冒険遊び場づくり活動団体実態調査】

冒険遊び場づくり活動団体399団体（第5回は274団体対象）を対象にアンケート調査を実施した。今回から、対象を「活動団体」に変更（これまでは、遊び場単位で実施）。有効回答数は212団体（回収率53.1%）。

週3回以上開催している団体は、35団体（16.7%）。2010年以降に活動を開始した団体は、48団体。プレーリーダーがいる団体は123団体（67.6%）。

【第4回全国自治体冒険遊び場づくり事業実態調査】

全国の859自治体（都道府県+市+特別区）を対象に、冒険遊び場づくり事業実施について実態調査を実施した。回答数は300自治体（回収率35%）。実施しているという自治体は35自治体。事業委託が44.1%、指定管理5.9%であった。プレーリーダーの資格の必要性については（N=33）、「必要である」30.3%、「必要ではない」21.2%、「わからない」27.3%であった。

2種類の調査を今回からWeb併用調査としたが、思った以上に回収率が伸びなかった。調査時期が遅かったことも要因であると考えられるが、Web回答がうまくいかなかったケースもみられ、web設計にいろいろと課題が残った。結果的には、集計作業が若干簡素化したが、回答率を上げるには至っていない。

活動団体調査を実施する際に、様々なデータベースを精査し、これらを統合したことは大きな成果だといえる。また、この作業の際に地域運営委員の皆様にご多大なご協力をいただき大きな力となった。

復興支援関連事業の報告

日本ユニセフ協会および復興庁による委託事業の収支と事業詳細について報告します。経緯や概要については事業報告、事業計画を参照ください。

《事業全体の収支》

●ユニセフ事業収支

収入	
ユニセフ 2013年業務委託費	5,741,069
〃 2014/1-3 〃	8,467,473
計	14,208,542
支出	
① 東北オフィス運営	6,641,548
② プレーカー	3,588,741
④ 「しかけん」	653,670
管理部門費	1,882,193
計	12,766,151

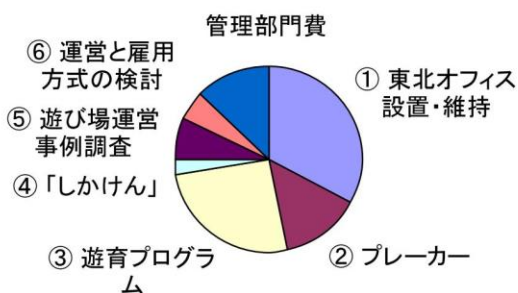
●復興庁事業収支

収入	
復興庁2013年度業務委託費	16,418,250
支出	
① 東北オフィス設置・維持	1,731,278
③ 遊育プログラム	6,552,469
⑤ 遊び場運営事例調査	1,800,000
⑥ 運営と雇用方式の検討	1,336,452
管理部門費	1,391,250
計	11,080,171

復興庁事業では受託費約 1600 万円に対し約 500 万円の余剰が発生。要因については財務諸表の注記を参照ください。

余剰金は繰越金に合算され、今年度の運転資金の一部として活用されます。(復興庁よりの委託事業は完了後の翌年度入金のため、立替払いの資金が必要となります。)

復興支援各事業支出割合 (2013年度)



2013 年度の各事業別の支出を見ると、東北オフィスの設置・維持が最も多くを占め、続いて遊育プログラムの実施、プレーカーの活動となっています。

《個別事業の収支と事業詳細》

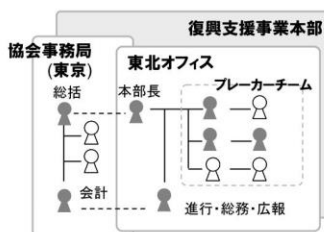
①東北オフィスの運営

プロジェクトの推進組織として被災地支援東北本部を設置(11月)、事務所を開設(12月)。

●仙台勤務:須永(本部長) 廣川(プレーカー乗員) 安達(広報・事務担当) 塩田(プレーカーアルバイト)

●気仙沼勤務:神林(プレーカー乗員)

●東京勤務者による東北作業の分担:林(事業総括) 岩下(経理) 糸賀、小島(事務)



■東北オフィス設置・維持 (2013)

人件費(総括担当 林)	1,305,000
〃(本部長 須永)	3,740,000
〃(プレーカー乗員 廣川)	400,000
〃(事務・広報 安達)	740,000
福利厚生費	640,383
出張費	185,462
家賃等	255,000
光熱通信費	145,639
備品	436,342
諸経費	525,000
支出計(税込)	8,372,826



東北オフィスの運営支出は主に人件費からなるが、2013 年度は開設のための備品費や敷金など諸経費の割合も大きい。

なお 2013 年度の人件費は林が 5 ヶ月分、須永 12 ヶ月分、廣川 2 ヶ月分、安達 4 ヶ月弱分。神林、塩田は 2014/4 からの勤務。

② プレーカー事業

2013 年は車両 1 台と乗員 1 名(須永)により、16 ヶ所、延べ 116 日間の遊び場開催を実施。また、せんだい-みやぎネットワークに貸与中の 1 台も活躍。



復興支援関連事業の報告

2014/2月、車両2台を購入。塗装整備完了(5月)。今年度は3台体制で、被災3県で高まっている遊び場のニーズに応える。3台の担当地域(予定)は以下のとおり。

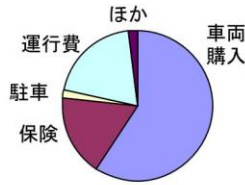


- 「あそびたいや」号: 岩手県・宮城県中部
(気仙沼拠点、神林乗務)
- 「あそぶーぶー」号: 宮城県中部
(仙台拠点、廣川、塩田乗務)
- 「あそぼっカー」号: 宮城県南部・福島県
(仙台拠点、須永乗務(暫定))

乗務員の確保と、健康面も含めた業務管理が今年度の課題。

■プレーカー経費支出 (2013)

人件費(⑤東北オフィス参照)	
車両購入(諸費含む)	2,121,780
保険など	633,880
駐車場	56,650
運行費(燃料・高速代等)	704,269
ほか(備品など)	72,162
支出計(税込)	3,588,741



2013年度は新規車両の購入費と保険料が大半を占めた。2014年度は運行費が中心となる見通し。

③ 遊育プログラム

復興支援活動のさまざまな現場で子どもたちに関わる者たちのスキルアップを図り、将来の東北の遊び場活動を支え、また新しい東北の社会を築く人材を育成することを目的とした合宿研修「遊育プログラム2013」を試行実施。

●日程: 講義とWS 2/24-28、現地PP訪問 3/1-2・16、世田谷4PPでの実習 3/18-22

●講師: 天野、武田、菅、関戸(博)、須永、ほか

●受講生計 19名(うち途中辞退2名)

準備期間の不足もあり、暫定的なカリキュラムとなったが、合宿形式と講師陣の熱意により、受講生間の将来のネットワークとなる深いつながりをつくることができた。

2014年度はカリキュラムを進化させ東北地域での実施を提案中。



■遊育プログラム経費支出 (2013)

受講生旅費、宿泊費	2,051,379
*講師等謝金(10名)	940,170
*スタッフ人件費(4名)	428,820
*委託先人件費(とし研)	504,000
*会場協力費(プレゼタ)	1,050,000
*資料費 送料 出張費	504,802
*委託先管理費(とし研)	718,658
諸経費	354,640
支出計(税込)	6,552,469

*委託業務(都市計画研究所(とし研))



④ 冒険遊び場プレイワーカー資格認定制度研究会 (略称「しかけん」)

プレイワーカー/プレーリーダーの認定資格の可能性を検討し、協会に答申する諮問研究会。社会的認知の拡大と待遇改善を目的に発足。第1期は12月~14年5月までに計3回を開催。資格制度の可能性とあり方について答申(予定)。答申を検討し第2期以降の進め方について判断する。

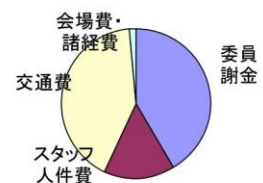
第1期は有識者10名による委員会形式。一定の問題意識の共有がなされた。

いっぽう会員や現場からも多くの意見が寄せられ、関心の高さが見られた。

今後第2期では運用の実現可能性が議論される予定。ひろく会員や現場を巻き込んでゆくことが課題。また、社会へのアピールの必要性が指摘された。

■しかけん経費支出 (2013)

委員謝金(10名x2回)	270,000
スタッフ人件費	100,000
交通費(10名x2回)	275,400
会場費・諸経費	8,270
支出計(税込)	653,670



2013年は委員会形式のため謝金、交通費が大半を占めた。

⑤ 遊び場運営事例調査

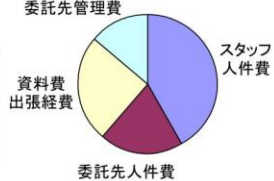
地域住民と行政の協働に焦点を当て、先導的と考えられる事例を全国10自治体71ヶ所の遊び場を対象に調査、分析。

行政との協働のための要点を抽出。2014年度はこの成果を東北地域の自治体担当者にフィードバックする研修会を計画している。

■遊び場運営事例調査 (2013)

*スタッフ人件費(X名)	750,000
*委託先人件費(榎木研)	350,000
*資料費 送料 出張経費	450,000
*委託先管理費(榎木研)	250,000
支出計(税込)	1,800,000

*委託業務(榎木研究室)



⑥ 運営と雇用方式の検討

東北での遊び場運営の持続可能性をテーマとして、4カ所の活動を考察。「派遣型」「地縁型」「ネットワーク型」の3つの仮説モデルを提示。

2014年度は東北数ヶ所において地域の遊び場運営のきっかけづくりのWSなどの支援を計画。

■運営と雇用方式の検討 (2013)

*調査費(三陸ひとつなぎ自然学)	334,113
*調査費(北上PP有志の会)	334,113
*調査費(ISHINOMAKI2.0)	334,113
*調査費(震災復興未来F)	334,113
支出計(税込)	1,336,452

*委託業務



(以上 文責 林)

特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

2013年度 貸借対照表

2014年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	2,279,201	
未収金	29,673,603	
棚卸資産	470,022	
前払費用	20,304	
流動資産合計		32,443,130
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
車両運搬具	2	
建設仮勘定	2,993,930	
有形固定資産計	2,993,932	
(2) 投資その他の資産		
保証金	98,620	
投資その他の資産計	98,620	
固定資産合計		3,092,552
資産合計		35,535,682
II. 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	10,290,161	
未払法人税等	70,000	
前受金	49,000	
預り金	886,111	
流動負債合計		11,295,272
2. 固定負債		
長期借入金	1,200,000	
固定負債合計		1,200,000
負債合計		12,495,272
III. 正味財産の部		
前期繰越正味財産		11,747,209
当期正味財産増減額		11,293,201
正味財産合計		23,040,410
負債及び正味財産合計		35,535,682

2013年度 活動計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位：円)

科目	金額	
I. 経常収益		
1. 受取会費収入		
正会員受取会費	2,587,022	
賛助会員受取会費	192,000	2,779,022
2. 受取寄附金		2,050,078
3. 受取助成金		1,920,000
4. 事業収益		
受託事業収益	40,975,052	
販売等収益	1,081,311	42,056,363
5. その他収益		
受取利息	2,500	
雑収入	495,707	498,207
経常収益計		49,303,670
II. 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	6,414,333	
法定福利費	640,383	
業務委託費	16,126,841	
人件費計	23,181,557	
(2) その他経費		
売上原価	100,227	
印刷製本費	514,077	
会議費	1,133,528	
旅費交通費	2,023,502	
通信運搬費	425,248	
消耗品費	973,975	
水道光熱費	21,403	
保険料	667,960	
租税公課	103,050	
車両関連費	730,411	
賃貸料	334,207	
燃料費	0	
支払手数料	412,136	
雑費	54,155	
その他経費計	7,493,879	
事業費計		30,675,436
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	4,392,400	
法定福利費	826,436	
人件費計	5,218,836	
(2) その他経費		
会議費	135,816	
旅費交通費	416,312	
通信運搬費	219,830	
消耗品費	146,608	
水道光熱費	200,000	
租税公課	4,200	
支払リース料	420,525	
支払手数料	507,831	
雑費	65,075	
その他経費計	2,116,197	
管理費計		7,335,033
経常費用計		38,010,469
当期経常増減額		11,293,201
当期正味財産増減額		11,293,201
前期繰越正味財産額		11,747,209
次期繰越正味財産額		23,040,410

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

2. 事業別損益の内訳

科目	一般事業	震災特別事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益					
1. 受取会費			0	2,779,022	2,779,022
2. 受取寄附金	320,000	798,136	1,118,136	931,942	2,050,078
3. 受取助成金収入			0	1,920,000	1,920,000
4. 事業収益	11,429,571	30,626,792	42,056,363		42,056,363
5. その他収益		196,751	196,751	301,456	498,207
経常収益計	11,749,571	31,621,679	43,371,250	5,932,420	49,303,670
II 経常費用					
(1) 人件費					
給料手当	0	6,414,333	6,414,333	4,392,400	10,806,733
法定福利費	0	640,383	640,383	826,436	1,466,819
業務委託費	8,283,592	7,843,249	16,126,841		16,126,841
人件費計	8,283,592	14,897,965	23,181,557	5,218,836	28,400,393
(2) その他経費					
売上原価	100,227		100,227		100,227
印刷製本費	514,077		514,077		514,077
会議費	95,854	1,037,674	1,133,528	135,816	1,269,344
旅費交通費	529,452	1,494,050	2,023,502	416,312	2,439,814
通信運搬費	283,224	142,024	425,248	219,830	645,078
消耗品費	97,969	876,006	973,975	146,608	1,120,583
水道光熱費	0	21,403	21,403	200,000	221,403
保険料	42,420	625,540	667,960	0	667,960
租税公課	72,000	31,050	103,050	4,200	107,250
車両関連費	0	730,411	730,411		730,411
賃貸料	19,057	315,150	334,207	420,525	754,732
燃料費	0				
支払手数料	153,636	258,500	412,136	507,831	919,967
雑費	31,900	22,255	54,155	65,075	119,230
その他経費計	1,939,816	5,554,063	7,493,879	2,116,197	9,610,076
経常費用計	10,223,408	20,452,028	30,675,436	7,335,033	38,010,469
当期経常増減額	1,526,163	11,169,651	12,695,814	▲ 1,402,613	11,293,201

※震災特別事業における事業収益には管理部門に充てる費用3,241,887円が含まれています。よって震災特別事業の実質的な当期経常増減額はこの額を減じたものとなります。

また、震災特別事業のうち復興庁との請負委託事業(16,418,250円)においては、見積り確定後の復興庁による契約遅れが実施期間の短縮を招き、経常費用が圧縮され当期計上増減額が増加していますが、これは復興庁における事業開始期に伴う混乱という当期のみの特別な事情によるものです。(当期の成果をあげた請負委託契約のため費用返還は行なわれません。)

3. 使途等が制約された寄附等の内訳

使途等が制約された寄附等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は23,040,410円ですが、そのうち4,680,809円は震災特別事業に使用される財産です。従って、使途が制約されていない正味財産は18,359,601円です。

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
震災募金	3,882,673	798,136	0	4,680,809

3. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
車両運搬具	2,222,391	0	0	2,222,391	▲ 2,222,389	2
建設仮勘定	0	2,993,930	0	2,993,930	0	2,993,930
投資その他の資産						
保証金	18,620	80,000	0	98,620	0	98,620

2013年度 財産目録

2014年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手許現金	141,617		
郵便振替	408,604		
みずほ銀行 世田谷支店	1,489,910		
ゆうちょ銀行	239,070		
未収金	29,673,603		
棚卸資産	470,022		
前払費用	20,304		
流動資産合計		32,443,130	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
車両運搬具 2台	2		
建設仮勘定	2,993,930		
有形固定資産計	2,993,932		
(2) 無形固定資産	0		
(3) 投資その他の資産			
保証金 リサイクル預託金	18,620		
保証金 敷金	80,000		
投資その他の資産計	98,620		
固定資産合計		3,092,552	
資産合計			35,535,682
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 事業未払金	10,290,161		
未払法人税等	70,000		
前受金	49,000		
預り金	886,111		
流動負債合計		11,295,272	
2. 固定負債			
長期借入金	1,200,000		
固定負債合計		1,200,000	
負債合計			12,495,272
正味財産			23,040,410

【参考資料】 2009 年度 第 2 号議案のトレースその 4

協会の財政再建の取り組みと震災関係特別会計

会員の皆様には、2009 年度総会の第 2 号議案「協会ミッションと新体制について」において、協会の経営状況と会費値上げのお願いをしなければならなかった背景を説明し、合わせて協会のミッションの再確認と新体制における取組み方針について報告しました。そして、2011 年度以降の総会では、協会が財政再建に取り組んだ状況と結果についてトレースを報告しました。また、2012 年度以降の総会では、2011 年 3 月に発生した東日本大震災をうけて協会が実施した被災地域の遊び場づくり活動等を踏まえて、震災関係特別会計の設定について報告しました。今回は、5 年目のトレースを報告します。

＜管理費の原資確保について＞

協会は、全国の冒険遊び場活動団体及び個人を支援する中間支援組織ですので、役割を果たすために「事務局の維持管理等にかかる経費（管理費）」の原資を確保する必要があります、「○：会費収入＋一般収入＞管理費」とすることを予算管理の目標としてきましたが、2013 年度は、2008 年度以来 5 年ぶりに「●：会費収入＋一般収入＜管理費」となりました。

これは、2013 年度は、復興庁及び日本ユニセフ協会からの震災復興関連の受託事業と、地方自治体からの遊び場づくり関連コンサル 5 件の受託事業をうけることになったことなどにより、協会本部の事務局体制の強化が必要となったことが影響しています。

表 1：協会会計（決算）の推移（震災特別会計は通常会計の内数）（単位：万円）

費目	07 年度	08 年度	09 年度	10 年度	11 年度	震災 特別	12 年度	震災 特別	13 年度	震災 特別	
収入の部	会費収入	110	190	318	281	274	0	289	0	278	0
	一般収入	910	240	230	672	980	858	531	396	451	99
	助成・受託	1,840	420	301	1,019	1,553	937	1,235	231	4,201	3,063
	前期繰越	280	470	185	429	694	1	1,272	630	1,175	582
	(TOTAL)	3,140	1,320	1,034	2,401	3,501	1,796	3,227	1,257	6,105	3,744
支出の部	事業費	2,070	470	276	1,344	1,768	1,115	1,446	676	3,067	2,045
	管理費	600	670	329	363	507	50	707	0	734	0
	次期繰越	470	180	429	694	1,272	630	1,174	582	2,304	1,699
	(TOTAL)	3,140	1,320	1,034	2,401	3,501	1,796	3,327	1,258	6,105	3,744
収支差額（繰越除く）	190	-290	244	265	532	630	-98	-49	1,129	1,117	
(会費＋一般)－管理	○ 420	● -240	○ 219	○ 590	○ 747	○ 808	○ 113	○ 396	● -5	○ 99	
主な行事	全国 集会			全国 集会					全国 集会		
一般収入＝寄付金＋参加費＋販売費＋広告収入＋その他 受託・助成収入＝受託事業収入＋助成金収入 事業費＝事業給与手当＋謝金＋仕入れ＋事業委託費＋その他 管理費＝管理給料手当＋法定福利費＋その他 繰越金＝期末（期首）現在の正味財産（＝資産－負債）（端数処理は、万円単位を四捨五入し、合計金額優先とした） 【(会費収入＋一般収入)－管理費】○：管理費の原資が充足（値が正）、●：不足（値が負）											

2010年度以前の「助成・受託事業収入」は、管理費を計上できない助成金が大半であったことに対して、2011年度以降は、管理費を計上できる受託事業の割合が増えて、かつ規模が大幅に拡大していることから、現時点の協会財政基盤の健全性に対する評価は「良好」であると考えられます。また、受託事業が増えていることは、「遊びあふれるまちへ」のミッションに基づく事業への理解が、行政等に広がりを見せている証左であり、望ましい傾向であると捉えています。

ただし、震災復興関連受託事業に関しては、委託者である復興庁や日本ユニセフ協会側の事業期間が複数年に亘ることが予想されているものの、当然ながら終了となる時期があることを念頭において、協会の財政運営を行う必要があります。そこで、震災復興関連事業に対応する事務局である東北オフィスの設置経費は事業費として計上しています。協会本部の事務局についても、震災復興事業の事業期間終了とともにスリムな事務局体制に戻すことを考慮して効率的に業務をすすめてまいります。

<会費収入、一般収入増額の取組み>

協会は、「遊びあふれるまちへ」のミッションを共有してともに取り組む会員（個人・団体）と、ミッションを共有して様々な形で応援してくれる「応援団（仮称）」（個人・団体）の数を増やし、かつ、日本全国に広げることにより、ミッションの実現を目指したいと考えています。

収入面では、会費収入で最低限の管理費相当分（約400万円）を賄えるように会員数を増やすことを将来的な目標としております。2012年度には初めての企業の賛助会員を得ることができましたが、2013年度は全体の会員数は横ばいでありましたので、継続して取り組んでまいります。

応援のひとつの形として寄付がありますが、これまでも震災復興支援を目的とした寄付や目的を限定しない寄付を多くの個人・団体からいただいています。2013年度は震災復興関連の寄付が伸び悩んでいる一方で、冒険遊び場全国一斉開催のポスター作成費用等を㈱ビクトリノックス社に負担していただくなど、寄付における企業連系の仕組みが少しずつではありますができてきています。引き続き寄付による一般収入を増やす取組みを行いますのでご協力をお願いします。

尚、協会では、寄付者への税制上の優遇が得られる認定NPO資格取得にむけて引き継ぎつづき取り組んでおり、2015年度の取得を目指しています。認定NPO資格取得のためには、一年あたり3000円以上の寄付が100名以上あることが前提条件となっております。これについてもご協力をお願いします。

<次期繰越金の状況とトレースのまとめ>

2013年度の次期繰越金は、昨年よりも大幅に増えていますので、参考として解説します。

震災復興特別会計では、例えば、復興庁の「新しい東北」先導モデル事業の「住民・行政のパートナーシップで育てる冒険遊び場モデル事業」について、事業採択されたのが10月であったものの事業契約が締結できたのが2月となりました。そのため、短期間で集中して事業を行うこととならざるを得ず、「遊育プログラム2013」は、2月の仙台での講義と3月の東京の実地研修を、各々長期間宿泊しての集中研修を行うという形で実施することとした結果、計画よりも事業経費が圧縮されました。成果としては、非常に厳しいスケジュールにも関わらず、19名の研修生が集まった上に、研修生同士の絆が深まるなどの副次的効果も生みました。また、その他の事業においても、会員による直轄作業を増やすなどして、事業経費を圧縮しつつ成果をあげて、次期繰越金を大幅に増やしました。

一方、通常会計分では、福岡県で実施した2013年度の冒険遊び場づくり全国研究集会については、助成金収入を確保できず自己資金で運営せざるを得なかったにも関わらず、参加者数拡大と経費削減に取り組んだ結果として、前年度とほぼ同額程度の次期繰越金を確保することができました。

トレースのまとめとしては、現時点で大変よい財政状況にあります。震災復興関連で予算規模が拡大していることに目を奪われていると、それがなくなったときに協会財政が破綻するリスクを抱えていますので、冷静にリスクを管理しながら、安定した財政運営につとめてまいります。

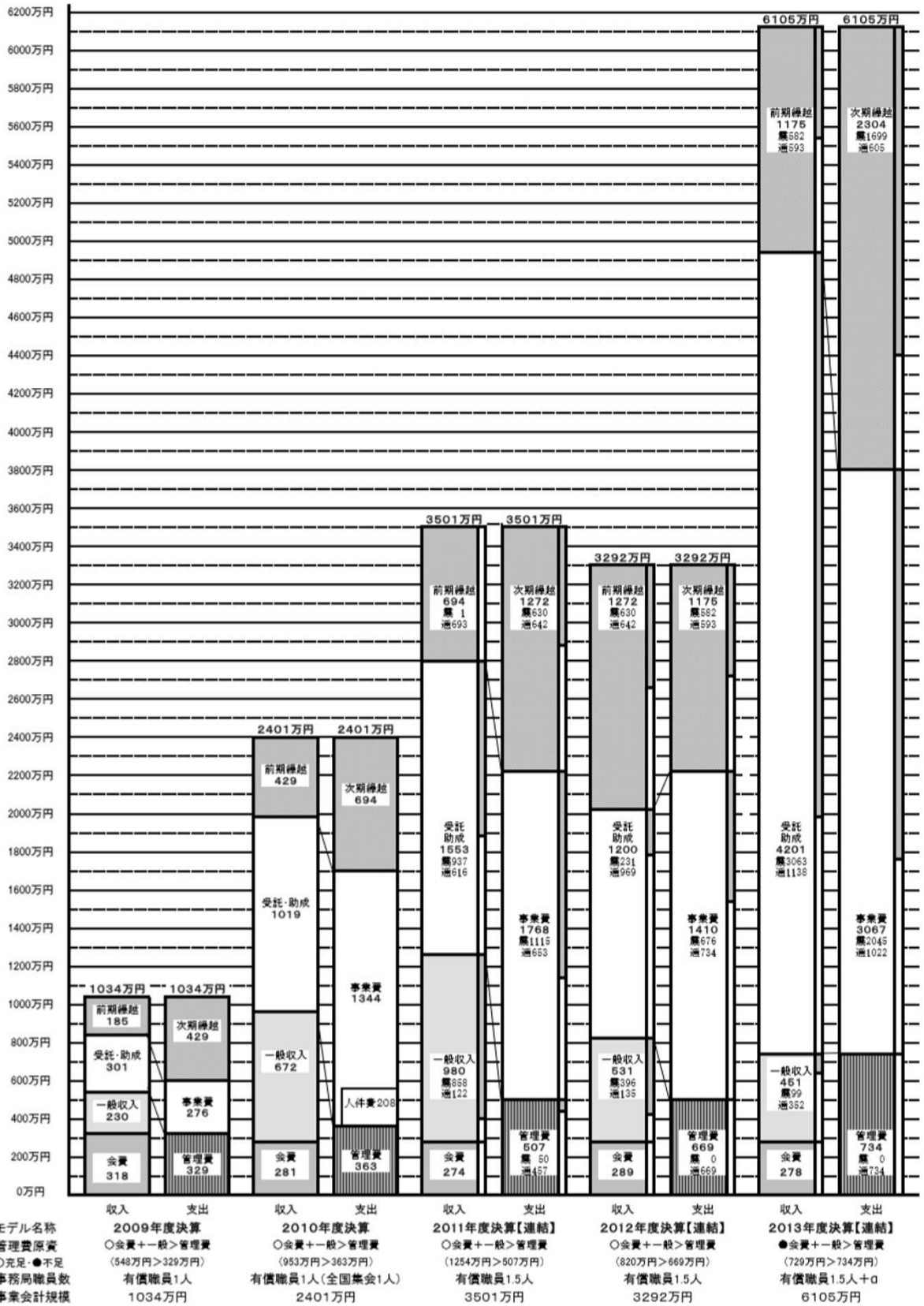


図1：協会の2009年度以降の収支の実態

第2号議案 理事・監事の改選

【決議事項】

第8期の理事・監事案については、資料5「第8期（2014年7月1日～2016年6月30日）理事・監事候補者一覧」をご覧ください。

□改選の経緯

- ・2014年2月13日
2014年6月30日をもって第7期役員の任期が終了するため、『理事・地域運営委員募集要項』を郵送、ほかML等を通じて、正会員のなかから次期役員の立候補・推薦を募った。
- ・2014年4月6日
2014年4月6日に開催された2014年度第1回理事会において、理事・監事の候補者案を作成した。
- ・2014年6月7日（予定）
2014年6月7日に開催される2014年度第2回理事会において、理事・監事の候補者案を確認した。
(理事改選後に、総会を休憩し、その間に臨時理事会を開催し、代表と副代表を決する。)

□改選の手続き

- ・理事・監事の選任は、総会の議決事項。代表及び副代表は、理事の互選。
(参考：地域運営委員の選任は、理事会の議決事項)

□候補一覧等の作成

- 【理事】応募・推薦の資料（協会において担いたい役割等）を参考に候補者案を作成した。
- 【監事】留任の打診をし、諒解を得て候補者案とした。

■第8期（2014年7月1日～2016年6月30日）理事・監事候補者一覧

資料5

氏名・所属・職業	自己紹介（推薦人による紹介）	協会において担いたい役割（推薦する理由）
あまの ひであき 天野 秀昭 NPO 法人プレーパークせたがや/NPO 法人たまりば/NPO 法人園庭・園外での野育を推進する会/こども環境学会/大正大学	子どもが遊ぶ、それを通じて見る見る変わっていくその子どもの体と心、そしてコミュニケーション。それに魅せられて、早35年。1年間の常駐ボランティアとしてプレーリーダーを務め、その後それを生業とし、プレーパークづくりにずっと関わってきました。この間、子どもの遊ぶ環境は決して好転せず、遊び場において！と言っているだけのお追いつかなくなってきた観があります。そこでいよいよ、幼稚園・保育園の園庭を遊び場にしちゃおうと動き出しました。子どもが遊ぶ、そんな当たり前のことが当たり前に見える社会づくりにこれからもまい進です。	自己紹介のとおり、子どもが遊ぶ環境づくりにまい進です。協会だからやれることもあれば、協会だからやりにくいこともある。その全体をしていこうと思いますが、協会では以下のことをしたいと思います。 ・全国各地、ことに被災地での遊び場づくり支援 ・遊び場づくりのための研修 ・遊ぶことの意味、意義の啓発
いりえ まさこ 入江 雅子 戸山あそび場 推薦者：関戸まゆみ	冒険遊び場づくりの活発な東京地域で、現在も運営者の立場での活動を続け、地域運営委員としても協会の活動に関わった経験を生かして、今現在の全国各地の遊び場づくりの応援をする中間支援のあり方について、ぜひ知恵と力を発揮していただきたいと思っています。	・理事会において、遊び場づくりの最前線の声や実情を伝えてもらえる。 ・各地の地域運営委員の活動の活性化のために、発信や取りまとめができる。
かじき のりこ 梶木 典子 神戸女子大学家政学部家政学教授	神戸女子大学の家政学部家政学科で、住空間を学ぶコースの担当をしています。 インテリアからまちづくりまで、幅広く扱っています。また、地域と学生が連携する活動を推進しています。	冒険遊び場づくり活動を含めた子どもの育成環境をテーマに研究をしています。 これまで冒険遊び場づくり活動の実態調査を重ねてきています。 これらのデータや知見を活用して、普及・啓発を行っていきます。

<p>こが ひさたか 古賀 久貴</p> <p>元・日本冒険遊び場づくり協会事務局／小学校教諭</p>	<p>日本冒険遊び場づくり協会の事務局を9年間担っていました。現在は、小学校教員をしています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊びあふれるまちへ！」の考えを多くの人たちと共有できる社会にしていきたいです。 ・冒険遊び場づくりは、徐々に社会的認知が高まっているように感じています。さらに、近接分野（保育、教育、造園etc）とのかかわり合いを深めるための取り組みを進めていきたいです。 ・冒険遊び場づくりを通じて見える「自由」や「自治」、「子ども」といったテーマについて、語り合える場をつくっていきたいです
<p>さいとう けいこ 齋藤 啓子</p> <p>武蔵野美術大学／NPO 法人プレーパークせたがや理事／IPA（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）会員</p>	<p>冒険遊び場づくり活動を含めた子どもの育成環境をテーマに研究をしています。これまで冒険遊び場づくり活動の実態調査を重ねてきています。これらのデータや知見を活用して、普及・啓発を行っていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の協働を促進する情報発信を、会報「N遊S」の発行を通しておこなう。 ・若い世代を対象に遊びの世界おもしろさを伝えるメディアを企画、制作する。 ・被災地域支援記録を活用した事業展開を検討し企画する。
<p>ささき けんじ 佐々木 健二</p> <p>西公園プレーパークの会／会社員</p>	<p>仙台市の西公園プレーパークの会副代表理事、兼プレーパークプロジェクトリーダー。 学生時代に冒険遊び場に出会う。 ニックネームはクロベ。会社員。 2008年7月から2014年6月まで当会理事（第5・6・7期）。 政策提言活動及び被災地支援事業を担当。</p>	<p>当会理事として2009年度に作成に関わった政策提言書「外遊びの力を次の世代に」は、日本全国の会員に配布し、さらに会員によって遊び場づくりの理解者になってほしい人たちに手渡すことができました。また、東日本大震災以後の被災地の遊び場づくりを通じた子どもの心のケア事業では、2013年度に中期計画をまとめ日本ユニセフきょう及び復興庁との連携の仕組みをつくることができました。 次期の理事となった場合は、継続して取り組みたい。</p>
<p>しまむら ひとし 嶋村 仁志</p> <p>TOKYO PLAY代表／IPA（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）</p>	<p>1996年からプレーリーダーとして冒険遊び場で活動してきました。今は、常駐している遊び場はありませんが、冒険遊び場だけでなく、国内外の遊び場や「遊ぶ」に関わる人に向けた仕事をしています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく行政が関わる冒険遊び場づくりでの課題整理、情報提供、実施の支援・補助 ・冒険遊び場プレーワーカーの資格検討会議にて、プレーリーダーの声も反映させながら、プレーリーダーの社会的役割、基礎となる価値観、実践の質を整理できるようにしたい ・ノウハウブックレットの続編の発行
<p>すが ひろつぐ 菅 博嗣</p> <p>造園家・まちづくりプランナー／(株)あいランドスケープ研究所</p>	<p>市民参加による公園やまちづくりの仕事に就いてきました。自らの環境づくりに与していくことの大切さを改めて考えている造園技術者です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども観、遊び観、に加えて地域（社会）観についての考えを整理して行くことに貢献したい。 ・一人の思いを複数で協議してさらに地域社会において継続して共有していくことのできる仕組みづくりに役割を見出した。 ・土、生き物、季節の変化といった自然要素と豊かに向き合う環境づくりに貢献していきたい。 ・地域計画、行政計画、コミュニティ計画など、構想プランニングにおける論点の抽出や議論展開を支援したい。
<p>すなが つとむ 須永 力</p> <p>日本冒険遊び場づくり協会（理事・東北オフィス本部長）</p>	<p>ぶんちゃと呼ばれています。昭和39年生まれ、千葉県柏市育ちの50歳です。 26歳の時に世田谷の「駒沢はらっぱプレーパーク」のプレーリーダーとなったのを始まりに、ほぼ四半世紀、遊び場に関わっています。 その後、静岡県営「静岡県富士山こどもの国」、仙台市営「仙台市海岸公園冒険広場」（NPO法人「冒険あそび場・せんだいーみやぎネットワーク」指定管理）に関わりました。 仙台を離れ、古巣の静岡県富士市に戻っていたところ、東日本大震災が起きました。 もうひとつの故郷仙台と東北の人々のために何かしたいと、東北支援事業としてプレーカーによる遊び場の出前と、東北各地の人たちによる遊び場づくりのお手伝いをしています。 様々な場所、様々な時、様々な運営形態の遊び場に関わってきた点に於いて経験豊富だと思っています。</p>	<p>子どもが遊ぶということは至極当たり前のことであって、私自身冒険遊び場は本質的に特殊な場では無いと思っています。 私は特殊なテクニックやスペシヤルな理論を持ち合わせてはませんが、当たり前の環境をつくるための当たり前の場をつくるツールになることができます。 今は東北の被災地に集中して地道な遊び場づくり活動を続けています。 これからも意思、体力、資力、そして時間の続く限り、繋がった人たちに協力し続けます。</p>

<p>せきど ひろき 関戸 博樹</p> <p>プレイヤー (フリーランス)</p>	<p>大学で福祉を学び、「全ての人が元気になれる地域をつくる」ことを仕事としたいと思っていました。冒険遊び場づくりと出会い、「住民が子どもの遊び場のことを考えて活動することを通じて、地域が元気になっていく」ことに大きな魅力を感じて2004年からプレイヤーを続けています。2012年4月よりフリーランスに。同時期より2年間は主夫として子どもを育て、子どもとの生活を実感する日々を過ごしていました。キーワードはエンパワメント。「その人自身の持つ力を最大限引き出す」ことを大切にしたいと思っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国一斉開催事業：担当理事として、より発信力のあるキャンペーンに育てていきたいです。 ・冒険遊び場プレイヤー資格認定制度研究事業：この話題の当事者であるプレイヤーの主体性をいかしつつ、制度の是非やより良いあり方の整理に努めたいです。 ・普及啓発事業：4月より子どもも保育園に通うので主夫生活も終わります。フリーランスのプレイヤーの立場をいかして全国的に普及啓発活動に対応できるように備えます。
<p>せきど まゆみ 関戸 まゆみ</p> <p>遊び場づくりコーディネーター</p>	<p>80年代に子育て中の地域住民としての羽根木プレーパークの運営に関わって以来、運営者（世話人）、区の受託事業団体で仕事としてなど、さまざまな位置で冒険遊び場づくりを担い、活動を広げてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの深くてながい経験を伝えたい ・地域の人々が自分たちで遊び場づくりをすることを推めたい ・冒険遊び場づくりの、一様でないあり方を示したい ・たくさんの人の知恵や力を出してもらうように働きかけたい
<p>たにい さちよ 谷居 早智世</p> <p>埼玉冒険遊び場づくり連絡会/NPO法人ハズオン!埼玉</p>	<p>埼玉冒険遊び場づくり連絡会結成を呼びかけ (2007年) N遊S編集に参画 (2008年～) 中学3年生になる一人息子、母、私の3人で越谷で暮らしています。 最近子どもが遊んでくれなくなっちゃって淋しいのデス。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会報N遊Sの会員参画の促進 ・協会内外への広報の推進 ・広域避難者のための遊びを通した在住支援 (首都圏を中心に)
<p>のした たけし 野下 健</p> <p>元・NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会</p> <p>推薦者：菅博嗣</p>	<p>世田谷区内の複数のプレーパークでのプレーリーダー経験で磨かれた感性は、明解率直です。理事会においても信念に基づく議論をし、協会活動においても確たる問題意識の下でネットでの意見交換の機会づくりや地域運営委員との交換の機会づくりなどに挑戦しておられます。 岡山での暮らしの基盤づくりが整えられれば、大きな力を発揮してくれる若き力の代表格の1人です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのテッターでのプレーリーダー経験と協会事務局を側方から支援してくれていた協会への理解を踏まえて、これからの中間支援団体のあり方を積極的につくって頂きたい。 ・大きな魅力の一つが、本質を考える姿勢と人と交換していこうとする姿勢です。理事会においてもその力を継続的に発揮して頂きたい。 ・現在の岡山において思考するという環境を好機と捉えて、全国の活動に必要な観点を発信して欲しい。
<p>はやし なおき 林 直樹</p> <p>日本冒険遊び場づくり協会事務局長</p>	<p>1960生、出身地大阪。東京学芸大学卒業後、㈱電通に28年勤務。企業の社会活動、CSR業務に取り組み中で協会に出会う。2013年中途退職後11月より事務局長兼復興支援事業統括。</p>	<p>協会の外で過ごしてきた永い経験に基づく客観的な視点を活かし、社会的公器としての「認定NPO」取得のために、協会の更なる進化、改革を担いたい。</p>
<p>みうら ゆきお 三浦 幸雄</p> <p>都市計画家・建築家</p> <p>推薦者：梶木典子</p>	<p>学生時代から冒険遊び場づくり活動に関わり現在に至っています。現在は、建築・都市計画のコンサルティング業務をこなしながら、冒険遊び場づくり協会の副代表として活躍しておられます。 豊かなバランス感覚と強靱な肉体をもち、これからも日本冒険遊び場づくり協会の発展には欠かせない人物だと思いますので、理事へ推薦いたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協会の事務局業務支援 (会計、契約など) ・東北復興支援業務全般 <p>理事のなかには、上記内容業務に秀でた人物が存在する必要があるから。</p>

監事

<p>おくむら げん 奥村 玄</p>	<p>まちづくりプランナー</p>
<p>ふくしま ともこ 福島 智子</p>	<p>NPO法人プレーパークせたがや</p>

第3号議案 地域運営委員の選任

【報告事項】

地域運営委員一覧は「資料6」を参照してください。

第5期 地域運営委員一覧

資料6

氏名・所属・職業【地域】	推薦者による紹介	期待したい役割
<p>【北海道】</p> <p>おかむら けいこ 岡村 恵子</p> <p>あそびばネットワーク北海道 さっぽろ冒険遊びの会</p> <p>推薦者：根本暁生</p>	<p>冒険遊び場と出会ったのは、東京都の小金井市で子育てをしている時。小金井での冒険遊び場づくり活動に支え手として携わっていたが、夫の転勤に伴い、札幌に転居することになった。札幌では、自然が多いわりに子どもが遊んでいないという問題意識から、自ら冒険遊び場づくり活動を立ち上げた。また、道内の遊び場づくり団体のネットワークを築くと共に、行政とも継続的に交渉して札幌市でのプレーパーク推進事業スタートに貢献した。</p> <p>協会の地域運営委員も長く務め、道内で折々に小集まりなど実施すると共に、全国集会や実態調査等、協会の事業がある際には各団体への呼びかけなどに積極的に動いている方なので、強く推薦いたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市はじめ、北海道の遊び場づくり活動や行政制度の全国への紹介 プレーパーク推進事業も始まり、活動のひろがりが出始めている札幌市において、協会の協力も得ながら、各団体をつなぎ横の連携を活性化 北海道で遊び場づくりに取り組む皆さんに、協会を通して得た冒険遊び場づくりについての情報を提供する 北海道の各団体の活動の状況を踏まえ、協会の運営に意見を伝える
<p>【東北(宮城)】</p> <p>かんばやし しゅんいち 神林 俊一</p> <p>気仙沼あそびばーの会</p> <p>推薦者：須永力</p>	<p>東日本大震災発生直後から気仙沼入りし「気仙沼あそびばー」の立ち上げから、地域住民への引継ぎまで力を尽くしてきました。現場から事務作業までこなす力量は、神林さんの努力とあって、「気仙沼あそびばー」でつきかわれてきたものだと思います。地域の人で神林さんのことを知らない人はいません。それも神林さんの人柄を表していると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「気仙沼あそびばー」の安定した運営と更なる役割の増強 宮城北部から岩手県内の遊び場づくりへの協力と助力 宮城北部から岩手県内の遊び場づくりの情報発信
<p>【東北(宮城)】</p> <p>さの ようこ 佐野 洋子</p> <p>特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんたい・みやぎネットワーク</p> <p>推薦者：菅博嗣</p>	<p>1999年よりのべ5年間、静岡県立富士山子どもの国のプレーリーダーを務め、その後2005年より「冒険あそび場-せんたい・みやぎネットワーク」に所属を移し、指定管理者として運営する仙台市立海岸公園の冒険広場でのプレーリーダーとなりました(2005～2007年、2010年～現在)。</p> <p>2011年の東日本大震災以降、同公園が休園中のために、海岸公園の周辺地域でプレーカーを使った移動型遊び場活動に取り組んでいます。子どもとのやり取りはもちろん、乳幼児の父母、お年寄りをも含む地域の方々との関係づくりならびに遊び活動への巻き込み力には定評があります。これまでの経験で培ってきた思考を重ねてきた佐野さんは、伝える力のある方です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県を中心に、東北地方での遊び場づくり活動の全国への紹介 東北地方で遊び場づくりに取り組む団体・個人への情報提供・相談 冒険遊び場づくり活動での様々な場面において本質を突いた投げかけをする力を、活動が増えている昨今においてこそ発揮して活動者との良い議論を支援して欲しい。
<p>【東北(宮城)】</p> <p>ねもと あきお 根本 暁生</p> <p>NPO 法人冒険あそび場-せんたい・みやぎネットワーク</p> <p>推薦者：佐野洋子</p>	<p>1995年、東京・世田谷区で生まれた「烏山プレーパークをつくる会」の活動に学生として参加して以来、同プレーパークのプレーリーダー、世田谷ボランティア協会プレーパーク事業担当職員、プレーパークせたがや事務局スタッフなどを務め、2008年から仙台に、「冒険あそび場-せんたい・みやぎネットワーク」に所属を移し、指定管理者として仙台市立の都市公園：海岸公園冒険広場の運営にあたりました。東日本大震災以降、同公園が休園中のため、周辺地域でプレーカーを使った移動型遊び場活動に取り組む、仙台市若林区のみならず隣接する宮城野区にも遊び場活動をひろげ、さらに岩沼市における遊び場を定着させるなど、「子どもの居場所づくり」に深い想いと熱意をもって取り組んでいます。協会には、冒険遊び場情報室設立時の事務局スタッフとなって以来のかかわりで理事も勤め、前回改選より「地域運営委員」として仙台市及びその周辺地域における「子どもの居場所づくり」に尽力しています。なお、2006・2007年度は非常勤の事務局員を兼務していました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県を中心に、東北地方での遊び場づくり活動の全国への紹介 被災地支援活動として様々展開されている、東北地方での遊び場づくり活動(およびその計画)への協力。根本氏自身が取り組んでいる仙台の遊び場の活性化と地域住民の方々への情報の発信 東北地方で遊び場づくりに取り組む皆さんへの、冒険遊び場づくりについての情報提供

<p>【東北(山形)】</p> <p>むらやま けいこ 村山 恵子</p> <p>NPO 法人クリエイティブひがしね・ひがしねあそびあランド</p> <p>推薦者：早川大</p>	<p>村山さんは子どもとどのように接するべきかとても丁寧に考えていらっしやいます。 遊び場や子どもの遊びに対する情熱はともある方なので是非地域運営委員をお願いしたい方です。(早川大)</p> <p>昨年5月5日子どもの日にオープンした「ひがしねあそびあランド」で事務局長兼プレイリーダーとして活動中。(自己紹介)</p>	<p>①山形県の行政や社会福祉協議会と共同活動 ②子ども・保護者・地域の方々に寄り添うリーダー育成 ③山形県独特の地域問題を丁寧に対応しながらの遊び場の拡大子どもと向き合う事を丁寧にやっている村山さんに担ってもらいたいと思いました(早川大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県内では初めて冬も開園している常設の冒険遊び場を運営。 ・平成17年度4月～東根市子育て支援拠点施設「さくらんぼタントクルセンター」にて、子育て支援業務に従事。 ・運営の成り立ちが、屋内遊び場運営からはじまり、屋内外における子育て支援の充実ということで、東根市より指定管理者として運営している。(本人)
<p>【関東(千葉)】</p> <p>ふるかわ みゆき 古川 美之</p> <p>四街道プレーパークどんぐりの森</p> <p>推薦者：入江雅子・菅博嗣</p>	<p>千葉県四街道市でプレーパークを開設し、13年。千葉県のモデル事業で行政との協働事業でプレーパークを継続開催し、現在四街道市のプレーパーク事業で遊び場を開催なさっています。(入江雅子)</p> <p>千葉県内のプレーパークネットワークのネットワークを生かした、遊び場を広げるために「千葉の小集まり」や合同研修会などを実施しています。(菅博嗣)</p>	<p>千葉県での県内ネットワーク構築と、県単位での行政連携の経験を生かして、全国で地域でプレーパークが市民権を得られるようなプロジェクトを組んでいきたいとご本人もおっしゃっており、活躍が期待できるので、引き続き地域運営委員に推薦します。(入江雅子)</p> <p>古川さんご自身が、四街道市における民有地を借りて冒険遊び場づくり活動を実現させた実践者であり、市ならびに県の行政とのやり取りの実績と経験は、全国の活動者に知恵と勇気をくれるものです。また活動団体においても信頼と人望が厚く、全国の活動団体の継続に関わる相談に乗って頂ける方であると思います。(菅博嗣)</p>
<p>【関東(千葉)】</p> <p>わだ きょうこ 和田 京子</p> <p>市川子どもの外遊びの会</p> <p>推薦者：古川美之</p>	<p>千葉県内でプレーパークのネットワークを組み、県内の遊び場推進に力を注ぐ主力メンバー 市川市で遊び場を立ち上げ、毎回300人を超える参加者を集め、団体のメンバーも信頼を寄せ、県内プレーパークを引っ張る存在です。)</p>	<p>千葉県内のプレーパークの活動の様子を、全国に発信できる。県を超えて、他団体との交流でき、遊び場の必要性を社会に発信できる。遊び場団体の課題を整理し、次のステップにつなげるスキルをもつ。</p>
<p>【関東(埼玉)】</p> <p>たけざわ まき 武澤 麻紀</p> <p>一畳プレーパーク</p> <p>推薦者：高子未乃梨</p>	<p>2013年春まで、NPO法人冒険あそび場ネットワーク草加の事務局長を3年間務め、冒険遊び場全国一斉開催や全国研究会の実行委員なども歴任。2013年度は地域運営委員として積極的に協会の取り組みに参画している。またこれも昨年より埼玉冒険遊び場連合会(さぼれん)の事務局を受けながら、自宅や地域の理解者宅の「自宅前の道路」という子どもの生活圏の最前線を活動の場とする「1畳プレーパーク」の主宰として地域の母親達と共に「遊びあふれるまちへ!」の体現者として活動している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県内初の地域運営委員として、県内の遊び場活動の活性化につながる役割が期待できる。 ・2013年度以前までも会員として協会が取り組んでいる事業に積極的に参画していたが、昨年より地域運営委員の立場となり、今後もより即時的、実働的な動きがとれるキーマンとしての役割が期待できる。 ・被災地支援事業のまともに関わる仕事にも意欲的に取り組み、事業体制の強化が期待できる。
<p>【関東(東京)】</p> <p>いくしま ひろこ 幾島 博子</p> <p>NPO法人ふれあいの家-おばちゃんち)</p> <p>推薦者：矢郷恵子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館職員の時代から冒険遊び場や自主保育をサポートし、子育てを中心としたNPOを品川で立ちあげてこられた ・現在運営に関わっている「おばちゃんち」は、居場所の先駆的な活動で、活動を通して全国的なネットワークや情報を持っておられる ・遊び場だけでなく子どもの育ちの環境など広い視野と関心で活躍されている ・東京の運営委員として、この幅広い経験と活動、情報があることはおおいに力になる ・活動の歴史も長く、地域との連携作りや社会的な役割などへのアドバイスがいただけること ・機動力もあり、運営委員として機敏に動いていただける方と期待している 	<p>地域運営委員として、地域とのつながりづくりや居場所づくりのノウハウなど、幾島さんならではの情報提供や相談、小集まりの開催が行えること。品川地域での活動の情報提供など、東京の中でも手薄な地域をカバーしていただけること</p>

<p>【関東（東京）】</p> <p>やごう けいこ 矢郷 恵子</p> <p>KOPA(KID'S OUTDOOR PLAY ACTIVITY)</p> <p>推薦者：入江雅子</p>	<p>矢郷さんは世田谷区でのプレーパークづくりを直接経験され、自主保育グループのサポートや身近な公園での遊びの工夫について発信するなど、幅広い活動をなさっています。地域運営委員をすでに3期経験し、東京冒険遊び場マップの作成やこあつまりでもファシリテートを行ってこられました。広いネットワークをお持ちなので引き続き東京地域運営委員として活躍いただきたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動状況をキャッチしやすいネットワークを持っている。 ・こあつまりでのファシリテートにより、いろいろな参加者の意見を引き出すことができる。 ・東京冒険遊び場マップの更新に向けて、前回の経験を活かせる。
<p>【関東（神奈川）】</p> <p>たかね み の り 高子 未乃梨</p> <p>相模原・銀河の森プレイパーク、乳幼児の外遊びの会・もりのこ、(特非)子どもと生活文化協会（CLCA）</p> <p>推薦者：齋藤啓子</p>	<p>1999年より10年間、羽根木プレーパークの世話人副代表、またプレーパークせたがや運営委員として活動。その後、神奈川県小田原市にて「子どもと生活文化協会（CLCA）」理事として不登校の子どもたちのサポートや「pp@seisho（プレイパークをつくる会@西湘）」を立ち上げ、現在は相模原の銀河の森プレイパーク、また2013年春より乳幼児の外遊びの会「もりのこ」を立ち上げスタッフとして活動している。冒険遊び場づくり協会においては10年程前より、全国集会、一斉開催、などの実行委員を歴任。4年前より神奈川地域運営委員に着任、協会広報誌「N遊S」編集委員としても活動している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川の地域運営委員として、県内の遊び場活動の活性化につながる役割。次年度は神奈川MAPの制作にも意欲を持っている。 ・県内の活動に留まらず、都内ほか関東地域などに持っている幅広いネットワークを活かし、冒険遊び場一斉開催事業を始め、協会の様々な事業に対しても遊び場活動の活性化を目標に熱心に取り組んでいる。 ・これまでに引き続きN遊S編集委員としても、また協会の様々な事業での広報活動に対しても期待する。
<p>【関東（神奈川）】</p> <p>わたなべ たけし 渡辺 建</p> <p>相模原に冒険遊び場をつくる会、相模原市協働事業「銀河の森プレイパーク」</p> <p>推薦者：高子未乃梨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺市プレイステーションでのプレイリーダー歴3年。それをきっかけに、2004年より地元である相模原市にて「相模原に冒険遊び場をつくる会」を運営する。2006年より8年間代表及びプレイリーダー（ワーカー）を務め、相模原市内での冒険遊び場の知名度を高めた。 ・その間にプレイパークをテーマにした論文を「相模原市教育実践研究論文」に2度投稿し、それぞれ奨励賞、優秀賞を受ける。 ・相模原市協働事業提案制度に市民提案して承認され、それまで出前だったプレイパーク活動を、2012年度より相模原市協働事業「子どもたちの生きる力を育む冒険遊び場『銀河の森プレイパーク』事業」に位置付け（単年度契約、最長3年）、常設への足がかりとする。 ・2013年(平成25年)11月、内閣府より「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」を市民団体として受賞した。「自然の中で子どもたちが自由に遊びを創造する冒険遊び場事業を、行政や地域の保育園、小中学校、高校、大学、関係団体等と連携して展開し、青少年の健全育成だけでなく、地域交流、世代間交流にも貢献している。」と評価された。 ・2014年5月日本保育学会大阪大会に懇意の保育士養成の短期大学教授と共に「地域に開くプレイパーク」と題して発表する予定。 	<p>相模原市内で活動している3ヶ所のプレイパーク及び隣接する大和市、座間市など神奈川県北エリアでのプレイパーク活動のネットワーク化から、神奈川県全域をつなぐ担い手として。また都内町田市のプレイパークとも連携していることから県域を超えた活動を期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教師だった経験、現職である児童クラブ施設長としての実績を踏まえ、また子育て3法の改正に伴う児童福祉改革の現状も鑑みながら、プレイパーク及びプレイリーダー（ワーカー）の価値や特質について差別化し、言語化していきたい。」という希望を持つことから、今のプレイリーダー（ワーカー）資格化検討についても新たな意見を期待したい。
<p>【北陸・甲信越（長野）】</p> <p>はんた ひろし 半田 裕</p> <p>あそび屋わにわに</p> <p>推薦者：関戸博樹</p>	<p>半田氏は信州大学在学中より現在に至るまで長年にわたり、精力的に地域の遊び環境の発展のために活動されております。第7期地域運営委員の任期中にも冒険遊び場全国一斉開催の際には決して冒険遊び場が多いとは言えない状況にある北陸・甲信越地域において呼びかけを行い地域の団体への周知や社会へのアピールのために尽力して下さっていました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸・甲信越地域での外遊びの重要性や冒険遊び場づくりの取り組みの発信などを期待したい。 ・地域からの遊び場づくりや講座などの依頼に対し担当していただきたい。
<p>【北陸・甲信越（長野）】</p> <p>よこやま のりこ 横山 紀子</p> <p>推薦者：天野秀昭</p>	<p>世田谷でのプレイリーダー歴は15年。現在日本では最も経験を積んだプレイリーダーの一人である。子どもの立場からの発信はもちろん、親たちからの信頼も抜群だった。経験を積んだプレイリーダーがいと頼ってしまい、運営に自立的に関わる親が減ると言う懸念がよく上がるが、経験を積んだ人だからこそ親の巻き込みが上手でその層を厚くすることができるということを実証もしてきた。その積み上げた力を次の世代に引きついで行かれる、数少ないメンバーである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人を繋いでいくことが大変上手なので、さまざまな立場の人を巻き込んでいける。 ・暮らしと遊びが都市部よりはるかに接近した生活を行っており、遊びの持つ力の新たな視点の発見が見込まれる。 ・遊び場に関わらない関係者、もっと多様な関係を築いていく力があるので、冒険遊び場づくりの裾野が広がる。

<p>【東海（愛知）】</p> <p>つかもと たけし 塚本 岳</p> <p>名古屋市緑児童館 館長 (てんぱくプレーパーク、豊田市内でのプレーパークなど)</p> <p>推薦者：菅博嗣</p>	<p>塚本さんは、ガクちゃんという愛称をもつ歴戦のプレーリーダーです。</p> <p>幼稚園のスタッフ経験を持ち、てんぱくプレーパークでは独自のプレーリーダー像を発信して世話人からも子どもたちからもたくさんの支持を得てきました。気仙沼のあそびーばーの開設にも尽力して、持ち前のギターのおうでまえて「虹」の合唱を盛り上げている様子はビデオ作品で有名です。(歌とキーが合っていなかったとか・・・) 現在は児童館の職員と言う立場にありながら、なお一層子どもの遊び環境について情熱を持つ男！です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い経験を活かして新しい活動者の様々を支えて欲しい 行動する男！のパワーを発揮して欲しい 中部地域の元気印としてこれまでの活躍を一層磨いて欲しい プレーパークと児童館を知るものとして地域を越えて全国に発信して欲しい
<p>【近畿（大阪）】</p> <p>かわぐち ひろゆき 川口 裕之</p> <p>NPO 法人 Kid's ぼけっと/ 冒険あそび場ちよっとバン</p> <p>推薦者：武部雄三</p>	<p>地域での長い活動</p>	<p>大阪府下でのプレーパークの連携など</p>
<p>【近畿・大阪】</p> <p>たけべ ゆうぞう 武部 雄三</p> <p>推薦者：川口裕之</p>	<p>大阪市都島区の公園にて15年間プレーパークを月1回開催。第3回全国集会在関西で実施された際には、中心的存在として活躍、関西の冒険遊び場に広くアドバイスを頂ける“天下の大親分”的な存在。</p>	<p>近年大阪府内で冒険遊び場という遊び環境がゆるやかに関心度が高まっている。大阪市西成区においても、常設の遊び場を官民連携で開設を計画中。そして府内ですでに運営中の冒険遊び場には、問い合わせ・見学者・講師依頼等のニーズが増加している。この状況を考えると、経験豊かな運営者でもある武部氏の存在は大きく、づくり協会をはじめ府内の運営代表の方々とのパイプ役としてこれ以上の適任者はいないと考えている。</p>
<p>【近畿・兵庫】</p> <p>いしだ だいすけ 石田 太介</p> <p>にしのみや遊び場つくり 会</p> <p>推薦者：梶木典子</p>	<p>石田太介さんは、第3回冒険遊び場づくり全国研究会の事務局を担ってから、関西の冒険遊び場づくり活動を支えるために様々な手腕を発揮してきました。冒険遊び場づくり協会の理事や副代表を担った時期もあり、冒険遊び場づくり活動のことを俯瞰的にみることもできます。モンベルとのコラボTシャツの実現にも手腕を発揮してきました。近畿地方での冒険遊び場づくり活動を支えていくためにも、石田さんの活動が大いに期待できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地域の冒険遊び場づくり、プレーリーダー養成に寄与する。 日本冒険遊び場づくり協会と各遊び場とのパイプ役になる。 企業と冒険遊び場づくり協会とのパイプ役となる。
<p>【近畿・兵庫】</p> <p>よねやま きよみ 米山 清美</p> <p>にしのみや遊び場つくり 会代表</p> <p>推薦者：梶木典子</p>	<p>米山清美さんは、阪神淡路大震災の空き地の有効利用と「のびのび遊べる場がほしい」という親の声をきっかけにして1999年12月「にしのみや遊び場つくり会」を立ち上げ、代表として活動を継続しています。2011年4月からは東日本大震災の被災地(岩手県野田村)に向き、遊び場づくりを通して被災地復興に関わっています。その他滋賀県冒険遊び場づくり事業、奈良県畿央大学の地域における遊び場づくり、大阪市阿倍野区の子育て支援団体依頼の乳幼児対象遊び場づくりなどのサポートも熱心にされています。幼児教育に携わることから、子どもの「育ち」に着目した遊び場であるとともに、大人も楽しい居場所作りを目指しておられます。これまでも地域運営委員としてご活躍くださり、これからも近畿地域における冒険遊び場づくり活動には欠かせない人材であります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地域の冒険遊び場づくりに寄与する 兵庫県内の冒険遊び場の充実をサポートする 被災地での遊び場づくりへのサポート 被災地同士のつながりで、より気持ちにより添った支援をする 日本冒険遊び場づくり協会と各遊び場とのパイプ役になる

<p>【中国(岡山)】</p> <p>まつだ ひでたろう 松田 秀太郎</p> <p>特定非営利活動法人 岡山 市子どもセンター</p> <p>推薦者：小島郁子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明るくて元気で若い。 ・プロのプレーリーダーとして経験豊富である。 ・地域全体を繋いでいこうというやる気を感じる。 ・づくり協会内に多数の知り合いがいる（顔が広い）ので、情報交換・共有がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山のプレーパークの繋がりの強化。山陽のプレーパークの繋がりの強化。→現在、岡山に住んでいる。本人がそれを望んでいる。 ・山陰のプレーパークとの連携。繋がりの強化。→昨年から引き続き、地域を繋ぐ役を担いたいとの本人の希望がある。山陽と山陰はまだ特に大きな交流はないが、山陽の交流が深まるにつれ、今後徐々に増えるであろうと期待する。 ・プレーリーダーとしての豊富な経験をもとに 各地域においてプレーリーダーの勉強会などを企画、開催する。→自らの経験をもとに話せるのは強みであり、説得力があるので最適。 ・プレーパークそのものへの地域への啓蒙活動、アピール。→プレーパーク活動の現場で 身につけた知識、技術、考え方、ポイント等を プレーパークを知らない人へ向けてわかりやすく発信できるスキルがある。 ・全国に広がる仲間（地域運営委員同士、プレーワーカー同士）との連携。→顔が広い。 ・いろいろな地域のプレーパークと関わっているので、その地方ごとの違いや特色を理解し、発信する。→いろいろな地方に住んでいる。比較・検討するスキルがある。
<p>【中国(山陰)】</p> <p>こじま いくこ 小島 郁子</p> <p>城東プレーパーク</p> <p>推薦者：山本良子</p>	<p>島根及び山陰におけるプレーパーク拡大に貢献され、現在、日本冒険遊び場づくり協会 中国地域運営委員としてもご活躍中です。</p> <p>また、プレーパークの運営やプレーリーダーの資質などについての知識が豊富で、今後の地域におけるプレーパークの拡大に必要な方だと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地域における冒険遊び場の普及、啓発活動 ・地域のネットワークづくり。
<p>【中国(山陰)】</p> <p>やまぎし かずと 山岸 主門</p> <p>島根大学</p> <p>推薦者：小島郁子</p>	<p>島根大学の教員として、学生が主体となって運営する冒険遊び場である『プレプレまつえキッズ』の顧問をされています。近隣の幼稚園・小学校・公民館と連携しながら地域活動にも幅広く、取り組まれています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中国地域の中でも、山陰地方での冒険遊び場づくり団体のネットワークづくり ・プレプレまつえキッズの実践を通じての人材育成 ・冒険遊び場づくり活動の普及・啓発
<p>【四国(愛媛)】</p> <p>やまもと よしこ 山本 良子</p> <p>NPO 松山冒険遊び場</p> <p>推薦者：小島郁子</p>	<p>愛媛県松山市にて NPO 松山冒険遊び場 代表兼事務局をされています。</p> <p>現在、日本冒険遊び場づくり協会 四国地域運営委員としてもご活躍中です</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四国地域における冒険遊び場の普及、啓発活動 ・プレーパーク活動を通じて 今まで培った人脈、近隣団体とのつながり等の継続、拡大。 ・これからの四国のプレーパーク活動団体の牽引役。 ・地域のネットワークづくり。
<p>【四国(香川)】</p> <p>つがわ まちこ 津川 眞智子</p> <p>推薦者：山本良子</p>	<p>香川県で冒険遊び場活動を広めるために活動されています。</p> <p>現在、日本冒険遊び場づくり協会 四国地域運営委員としてもご活躍中です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・香川内や四国地域における冒険遊び場の普及、啓発活動。 ・プレーパーク活動を通じて 今まで培った人脈、近隣団体とのつながり等の継続、拡大。 ・これからの四国のプレーパーク活動団体の牽引役。 ・地域のネットワークづくり。
<p>【九州(福岡)】</p> <p>ふじわら ひろみ 藤原 浩美</p> <p>子ども支援ネットワーク With Wind 代表</p> <p>推薦者：梶木典子</p>	<p>看護師経験での学びを根底に、子育てサークル、プレーパーク、子どもとメディア・子育て支援プログラム IPPPO・男女共同参画の活動など、長年地域の子育て支援や子どもの育ちの環境づくりを、仲間を集めながら牽引し実践して来られた方です。エンパワメントな関係で仲間を増やし、各事業で地道で丁寧な関わりを続けながら各方面・立場の方々の信頼を得、下地づくりをした上で、市のプレーパーク事業の立ち上げ、所属市民団体との協働化を実現させた立役者です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○広い人脈と多様な視点、旺盛な好奇心から、適時、各地域の情報をキャッチすることができる。 ○人を信じる力やファシリテータースキルから、各地域の多様な状況や人間関係を把握・理解し、様々な事情を鑑みながら、理事会・事務局とバランスよく繋ぐことができる。 ○一つ一つの物事に丁寧に向き合い、様々な活動経験をもって、具体的、実践的な意見が出せる。 ○次世代の人材育成をしながら活動を継続してきた経験から、各地域のリーダーやスタッフの育成に関り、活動の展開の手助けを行うことができる。 ○人が好きで、パワフルで、クリエイティブな性格から、仲間を引き入れながらより楽しい冒険遊び場づくりができる。

<p>【九州・沖縄(熊本)】</p> <p>はまさき さちお 濱崎 幸夫</p> <p>IPA くまもと・くまもとプレーパークネットワーク協議会顧問</p> <p>推薦者：関戸まゆみ</p>	<p>尚綱大学名誉教授(短期大学部)、常民保育研究所代表。日本の伝統的子育ての発達論、環境論を現代の子育てに生かすことを意図した「常民発達心理学」の研究と実践を精力的に続けている。IPA くまもと会員、プレイパーク・ネットワーク会議熊本相談役、熊本市プレーリーダー養成講座講師(10年以上、継続中)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・九州沖縄地域の活動団体や会員(委員)とも協力し、小集まりを企画するなど顔の見える関係での交流を積極的に進めたいという思いを聞き、熱意を感じたので、ぜひ実現してもらいたいと思います。 ・地方での思いなどを理念の再考に反映できるとよいので、地域運営委員として、これからはもっと意見を発信してもらえないかと期待します。 ・子どもの遊び等に関する他団体との連携を図りたい、そして今の子育てにおいて「野生力」の育成が急務と感じて活動を進めたいとのことなので、精一杯頑張ってください。
---	--	---

第4号議案 2014年度事業計画および予算

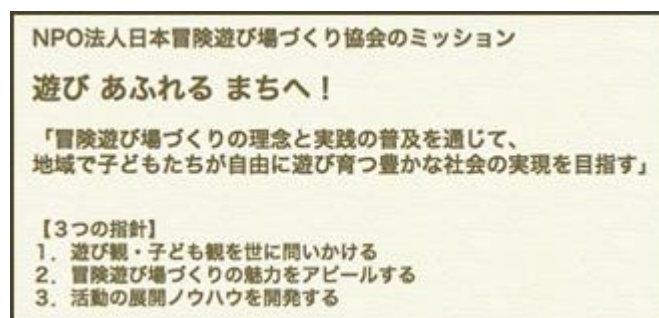
【報告事項】

事業計画は資料7「2014年度事業計画」、予算は資料8「2014年度事業予算」をご参照ください。

■2014年度事業計画

資料7

2014年度は、協会がこれまでに掲げてきているミッションを再確認し、それを踏まえて各事業を実践していくこととしたいと思います。



特に、復興支援事業は前年度同様、未だ道半ばであり、総括でも触れたように、子どもにとっての「遊び」が切実に求められています。前年に引続き着実に活動を行っていきます。

なお、日本ユニセフ協会と復興庁からの受託事業の総額は大きなものとなっており、実施体制をしっかりと整え着実に行うこととし、得られた知見や経験、成果を会員全体で共有できるようにしたいと考えています。

また、ミッションを共有し主体的に活動する「会員」に加え、活動に共感し支えて下さる「応援団」(仮)のメンバーを広く募ります。会員や応援団の皆さんとのつながりを強化し、冒険遊び場づくりに関し市民からの幅広いサポートが得られるよう努めてまいります。認定NPO法人格の取得についても準備を進め、2014・2015年度を実績判定期間とし2016年に認定申請を提出する予定です。

01 復興支援(東日本大震災復興支援事業)

●事業01：被災地復興支援継続実施(種まき・つながり・根付き)

担当：須永力・天野秀昭・佐々木健二

(日本ユニセフ協会からの委託事業 費用予算：33,300千円)

(復興庁からの委託事業 費用予算：40,864千円)

■事業目的

被災地における、遊び場のニーズ掘り起こし(種まき)、育て(つながり)、地域の運営に根付かせる(根付き)を継続事業として行なう。これによって、被災した子どもたちの健全な育ちとコミュニティの復興を図るとともに全国の遊び場活動の新しい可能性を開く。

■実施体制

ユニセフおよび復興庁より事業委託を受け設置された協会復興支援東北本部が実施を担う。

■事業内容と達成目標、スケジュール

- ・東北オフィスの継続運営

オフィス設備の充実(機器や棚)、広報活動(パンフレットやHP)、会計事務員(東京駐在)の配置

・あそぼっカー新体制での展開

4月末より3台体制で被災三県に展開してゆく。範囲の拡大のみならず密度を高め、新たなニーズを掘り起こしてゆきたい。有能な人員の補充が課題(4/1より神林を採用)。

・遊び場づくり東北小集まり

東北の遊び場づくり運営者同士が直接交流する場を設けてつながりを形成する。年5回程度。

・遊育プログラム2014(プレイワークスキル修得コース)

カリキュラムをバージョンアップし、東北三県各1ヶ所で夏～秋に実施。定員各20名。

・遊育プログラム2014(自治体研修コース)

前年度の遊び場運営事例調査の結果を東北地域の自治体へフィードバックし、地域と行政の連携の可能性と重要性を学んでもらう。三県各1ヶ所で開催。

・地域の遊び場づくり支援

前年度の運営と雇用方式の検討(現地ヒアリング)の成果を受け、数ヶ所で遊び場の実現のためのサポートを行なう。コンサルティングやWS、あそぼっカーによる遊び場体験などを想定。

02 一斉開催(第5回冒険遊び場全国一斉開催、MAP・遊び場一覧)

●事業02-1: 冒険遊び場全国一斉開催の実施 担当: 関戸博樹(費用予算: 471千円)

■事業目的: 「遊び」や「地域」との関わりの深い「冒険遊び場づくり」の実践は、近年の様々な社会問題や震災復興においても一つの社会的なメッセージとして評価を受け始めている。一方で、社会的な認知度はまだまだ十分とは言えない。今回で5年目となる「冒険遊び場一斉開催」では、これまで以上に社会への発信に重きを置いたキャンペーンとしての事業展開を行い、冒険遊び場の存在や子どもの遊びの価値について啓発活動に取り組む。

■事業内容: 全国各地の市民団体が運営している300団体以上の冒険遊び場に呼びかけて11月15日(土)～23日(日)の期間に全国で集中的に開催することで、冒険遊び場の存在や遊びの大切さなどを啓蒙啓発する。キャンペーン①ポスター3000枚を全国の冒険遊び場に配布し、人の往来が多い場所への掲示。有志のポスター部隊を募り大局的な見地で掲示場所を開拓。②実効性のあるプレスリリース。③街頭キャンペーン。④他の団体や企業のイベントへの参加時の事前告知。⑤協賛企業と連携した取り組み。写真展、スタンプラリー等。⑥web版全国冒険遊び場マップが共感の輪を広げていけるような取り組み。⑦北海道地方は11月の開催がしにくいという事情から、15年度はラリー式キャンペーン地域南下方法も視野に検討。

■実施体制: 担当理事、地域運営委員や会員による実行委員会

■達成目標: 全国の活動団体と協力して、200カ所以上で一斉開催/最低20件のメディア報道/2つ以上の企業の協賛/開催期間中に1カ所以上の街頭キャンペーンチーム編成/人目に付く場所(駅50カ所、大型商業施設20カ所、モンベル全店舗約80店)に300枚掲示。

■スケジュール:

- 4月 実行委員会発足キックオフミーティング(毎月1回召集)。スケジュール、課題の確認。
- 5月中旬 後援名義申請
- 5月～7月 協賛企業の決定、写真展準備、N遊Sで特集を組みたい
- 8月上旬～8月末 参加団体、写真募集
- 9月上旬 写真、デザインなど決定、9月下旬 ポスター入稿、プレスリリース開始
- 10月上旬 ポスター発送、ポスター掲示部隊の活動、事前告知、写真展の開始(10月～3月)
- 11月15日～23日 「冒険遊び場全国一斉開催」の実施、街頭キャンペーン
- 12月 振り返り、協賛企業への報告

●事業02-2: 遊び場MAP、遊び場一覧の整理 担当: 関戸博樹(費用予算: 20千円)

■事業目的: web版全国冒険遊び場マップを、共感の輪を広げていくためのツールとして育てていく。

■事業内容: 既存の活動団体データである。「冒険遊び場づくり一覧」と「全国プレーパーク(冒険遊び場)マップ」(Googleマップ)、「全国一斉開催 団体一覧」「活動実態調査」の連動を模索する。担当の関戸博樹(一斉開催分の担当も兼務)、とマップの管理者の佐藤氏で意見交換を行い、課題の抽出、連動のイメージ可視化、作業スケジュール案、費用、スポンサー企業の検討などを話し合う。今年度は一斉開催の団体一覧と協会の冒険遊び場づくり一覧の項目や表記を見直し、一斉開催時のポスター発送作業の効率化

を実現する。

■実施体制：関戸博樹、佐藤義岳氏（マップ管理者）

■達成目標：連動についての方向性やイメージが固まり、次年度以降の実行に備える。また、一斉開催時のポスター発送作業の効率化を図る。

■スケジュール：4月～8月 実施担当者による意見交換の場を設ける

7月 一斉開催の参加団体募集開始までに一覧の改良

10月 次年度の事業計画をまとめる

03 対話交流（地域運営委員・小集まり）

●事業03-1：地域運営委員研修交流合宿の実施 担当：野下健・入江雅子（費用予算：200千円）

■事業目的：全国の地域運営委員が中心となり、各々の地域において活動団体および活動者相互のネットワークづくりを進める。さらに、それらが活発になるように、地域運営委員を含めた全国の交流の場をつくる。これらの交流活動を通じて冒険遊び場づくりに関わる情報やノウハウ等の交換および人的交流により冒険遊び場づくり活動を促進する。

■事業内容：①各地域運営委員の活動のモチベーション向上と情報交換の場として、地域運営委員研修交流合宿を開催する。②地域運営委員同士のコミュニケーションと情報交換を促進し、各地域活動の活性化を図る。

■達成目標：第一回地域運営委員会研修交流合宿の実施、報告。

■実施体制：各地域運営委員、入江雅子、野下健

■スケジュール：4～5月 企画調整

6月 研修交流合宿実施

04 社会への問題提起（政策提言・資格認定検討）

●事業04-1：政策提言 担当：佐々木健二・三浦幸雄（費用予算：227千円）

■事業目的：子どもの育ちにおいて「外遊び」が必要不可欠であること、子育てにおいて地域住民主体の遊び場づくり活動が大きな役割を果たすこと、及び子どもの遊びに関わるプレーリーダーの専門性の高さや社会的地位の向上の必要性を社会に提起する。

■事業内容：地方自治体の子ども・子育て支援法及び次世代育成対策推進法の事業計画策定に関する動きに合わせて、新たな政策提言書「外遊びの力を次の世代に」を発行し、会員とともに政策提言活動を行う。

■達成目標：地方自治体の子ども・子育て支援法の事業計画等に、冒険遊び場に関する記述が盛り込まれることを目指す。

■実施体制：担当理事により政策提言書を発行し、会員により自治体に対して政策提言活動を行う。

■スケジュール：国が示している地方自治体の事業計画策定スケジュール案では、早ければ9月までに中間とりまとめを行い、10月以降にパブリックコメント募集を行うこととなっているため、9月の政策提言書発行を目指す。その後会員による政策提言活動を展開することとしたい。

●事業04-2：「冒険遊び場プレイワーカー資格認定制度研究会」（しかけん）

担当：林直樹（費用予算：1,500千円）

■事業目的：プレーリーダー/プレイワーカーの専門性とは何かということが社会的にも問われており、プレーリーダー/プレイワーカーを名乗ることのできる条件を明示する必要があるのではないかという問題意識から昨年度、研究会がスタートした。

■事業内容：今年度は、検討のテーブルに載せるための資格制度の案が、第1期委員より答申される予定。これをもとに協会として今後の作業の方向を検討し、必要であれば第2期の研究活動を行なう。

■達成目標：資格制度への取り組み方を、会員および広く関係者の理解のもとに決定する。

■実施体制：協会が研究会事務局を主宰、運営する。（事務局：林直樹ほか）

■スケジュール：5月もしくは6～7月 第1期答申

夏～秋 検討会や協会内外の意見集約会

冬～春（必要であれば）第2期研究活動

05 実施支援（行政との協働・講師派遣・ノウハウブックレット・危険管理）

「遊びあふれるまちへ！」に向けた冒険遊び場づくりの実施支援事業は次の通り。

- 事業 05-1：行政との協働 担当：嶋村仁志・菅博嗣・関戸まゆみ・三浦幸雄（費用予算：5,900 千円）
- 事業目的：行政が冒険遊び場づくり活動を施策として位置づけていくことを支援する。
- 事業内容：冒険遊び場づくり活動を継続的に地域に根付かせていくために、プレーリーダー派遣やコンサルティングを行い冒険遊び場づくり活動の周知、住民の組織化、ならびに開催システムの構築などを支援する。
- 達成目標：継続的に取り組んできた狛江市、港区での取り組みが継続開催できるように支援する。一年を通じて行政から寄せられる相談や支援要請に応じていく。
- 実施体制：嶋村仁志、菅博嗣、関戸まゆみ、三浦幸雄
- スケジュール：4 月～新年度体制による事業計画を協議し実施する
5 月 冒険遊び場づくり体験を実施する（港区では年間 16 日開催）
8 月 平成 27 年度以降の取り組み案の検討

- 事業 05-2：講師派遣 担当：菅博嗣（費用予算：970 千円）
- 事業目的：講師を派遣することにより、子どもがのびのびと思い切り遊ぶことの出来る機会の大切さを社会に発信する。
- 事業内容：冒険遊び場づくりに関わる学習会や講演会への講師派遣の要請に応じていく。また近年の講師派遣の実態を踏まえて講師派遣要請等に応じやすいカテゴリ設定、人材整理、経費検討などシステムの見直しを行う。
- 達成目標：2014 年度は、講師を担う人材を広く会員から求めることも含め、より具体的に踏み込んだ検討を行う。
- 実施体制：菅博嗣
- スケジュール：6 月～近年の講師派遣データの分析
9 月～講師派遣カテゴリ（案）と講師対応の人材リスト（案）の作成
12 月～講師派遣システムの運用と広報の検討のまとめ

- 事業 05-3：ノウハウブックレット 担当：嶋村仁志（費用予算：182 千円）
- 事業目的：冒険遊び場のよりよい運営に向けたノウハウを冊子として作成する
- 事業内容：ノウハウブックレット第 2 弾の作成
- 達成目標：ノウハウブックレットの発行
- 実施体制：嶋村が中心となり、イラスト、レイアウト担当のサポートを受けて作成
- スケジュール：6 月作成開始 8 月第 1 稿完成 11 月第 2 稿完成 1 月印刷

- 事業 05-4：危険管理 担当：菅博嗣（費用予算：300 千円）
- 事業目的：冒険遊び場づくりに関わる危険管理について考える機会を設ける。
- 事業内容：冒険遊び場づくり活動において話題となる危険管理、危機管理における考え方や姿勢、そして実際例を引き合いにしながら、危機管理についての考えを交換する。
- 達成目標：初年度の取り組みとして危険管理の論点を見出すことを目標とする。
- 実施体制：菅博嗣、理事、地域運営委員、会員から有志
- スケジュール：
■スケジュール：6 月総会まで、危険管理事業への共同事業者を公募する。
8 月まで、実際の事故対応の記録の作成。
12 月末まで、危険管理の実際を学ぶ機会の実施。
2014 年度総会まで、危険管理事業の成果と継続課題の整理。

06 会報発行（会員参画によるN遊S発行）

●事業 06-1：会員参画、編集による機関紙「N遊S」の発行

担当：齋藤啓子・関戸まゆみ・谷居早智世（費用予算：516,000円）

■事業目的：「遊びあふれるまちへ」を掲げる日本冒険遊び場づくり協会の機関誌「N遊S」を発行する。

■事業内容：年4回「N遊S」を発行。会員参加型での編集により、全国の会員に向けて冒険遊び場づくりに関わる「知りたい情報」「必要な情報」を特集してとりあげる。

■達成目標：協会各事業活動の促進を果たすことを目指す編集体制をつくる。地域編集版の年1回以上の発行を支援する。被災地支援事業と連携する「東北短信」を継続して掲載する。編集委員の拡大を視野に入れ、会員参加型編集作業体制をさらに進める。そのための取材費、編集会議参加のための交通費などの予算確保に助成金を獲得する。

■実施体制：齋藤啓子・関戸まゆみ・谷居早智世、事務局、会員からの公募委員

■スケジュール：
6月末 第59号発行
9月 第60号発行
12月 第61号発行
3月 第62号発行

01 復興支援（東日本大震災復興支援事業）についての追加情報

5月中旬、今年度の復興庁事業の精査結果が復興庁より通知され、遊育プログラムと東北事務所継続の二つの取組が見送られました。

委託予算は、当初 4,350 万円と見込んでいましたが、1,300 万円程度となりそうです。この結果を受け、

- ・遊育プログラムについては、今年度の実施可能性について今後検討。
- ・東北事務所は、「東北遊び場づくりセンター」と改称し、経費節減の上、存続をめざして財源のあり方を検討していきます。現時点の試算では、日本ユニセフ協会よりの委託事業で計上している一般管理費の一部を充てることで、存続は可能と考えています。

今年度の予算計画について、変更となる部分は以下のとおりです。

ユニセフ事業と復興庁事業について、一般管理費をはじめとした経費支出を精査し、東北遊び場づくりセンターの運営費および両事業による協会事務局の人件費増加分を含めて計上しています。

■2014年度事業予算（追加訂正部分） 2014/6/2

科目	復興支援事業			一般事業 事業04 04-2しかけん	受託事業 計	総合計
	事業01復興支援		事業04			
	ユニセフ	復興庁				
I 経常収益予算						
1. 受取会費	0	0	0		0	2,800,000
2. 受取寄附金	0	0	0		0	1,971,500
3. 受取助成金収入	0	0	0		0	480,000
4. 事業収益	31,513,531	13,024,800	1,500,000		53,938,331	55,092,331
5. その他収益		0	0		0	400,000
経常収益予算計	31,513,531	13,024,800	1,500,000		53,938,331	60,743,831
II 経常費用予算						
(1) 人件費予算						
給料手当	19,643,900	7,040,000	700,000		27,383,900	32,278,900
法定福利費	2,946,585	0	0		2,946,585	3,306,585
業務委託費	0	1,620,000	0		7,520,000	8,510,000
人件費予算計	22,590,485	8,660,000	700,000		37,850,485	44,095,485
(2) その他経費予算						
仕入	0	0	0		0	0
ボランティア経費	0	0	0		0	0
販売促進費	0	0	0		0	5,000
印刷製本費	0	0	0		0	735,000
会議費	0	600,000	300,000		900,000	1,111,600
旅費交通費	1,388,000	2,488,000	450,000		4,326,000	5,457,900
通信運搬費	3,220,000	0	0		3,220,000	3,719,000
消耗品費	600,000	13,800	0		613,800	749,800
水道光熱費	480,000	480,000	0		960,000	1,060,000
保険料	0	0	0		0	0
租税公課	0	0	0		0	70,000
支払リース料	0	1,140,000	0		1,140,000	1,478,310
支払手数料	0	0	0		0	21,600
支払報酬	0	0	0		0	0
減価償却費	0	0	0		0	0
雑費	0	0	50,000		50,000	60,000
その他経費予算計	5,688,000	4,721,800	800,000		11,209,800	14,468,210
経常費用予算計	28,278,485	13,381,800	1,500,000		49,060,285	58,563,695
当期経常予算増減額	3,235,046	▲ 357,000	0		4,878,046	2,180,136
前期繰越金	0	0	0		0	23,766,525
次期繰越金	3,235,046	▲ 357,000	0		4,878,046	25,946,661



< 第 11 回通常総会議案書 追加資料 >

第 3 号議案 地域運営委員の選任

【報告事項】

地域運営委員一覧は「資料 6」を参照してください。

■ 第 5 期 地域運営委員一覧

資料 6

【地域】 氏名・所属・職業	推薦者による紹介	期待したい役割
【東北(福島)】 <small>おの あきのり</small> 小野 昭典 福島県中通り地方 推薦者：菅 博嗣	<p>小野さんは、「のりえもん」いう愛称をもつプレーリーダー経験者です。横浜のプレーパークの展開を語るときには欠くことのできない男です。</p> <p>横浜市の片倉うさぎ山プレーパークでは、丁寧に向き合ったプレーリーダー活動を通じてのりえもんの子ども観、遊び観、そして地域観を構築してきました。それが証拠にのりえもんに信頼を寄せる子ども、世話人からの評価を今以て聞くことができます。プレーリーダーとして辛い事故経験も乗り越えてきたのりえもんが語る言葉には、伝わる力があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経験から得た思いや知恵を是非とも語ってほしい ・時々でよいので！ 重要な若手の一人として、全国の様々な試行錯誤の議論に参加してほしい（島根での事故時には素早くコメントをくれた、とても励みになった） ・福島県での外遊びには、ハードルはある。しかしながら、子どもにとっての遊びの重要性はむしろ高くなっている。時期を見ながら、小野さんの目を通した地元での思いや動きを全国につなげて欲しい。